

宮崎県方言の境界線を追って

岸 江 信 介

The Boundaries of Miyazaki Dialects

Shinsuke KISHIE

Abstract

This paper aims to define the boundaries of Miyazaki dialects based on field work done by Miyazaki Dialect Club (of Miyazaki International College) members and the author from 1995 to 1998. The data shows several dialect boundaries defined by various phonetic and grammatical features.

In particular, a mora dialect and a syllable dialect boundary is observed between Nishimorokata district and Miyazaki prefecture. In almost the same area, another boundary shows the distributions of the Hyuga and Satsuma dialects. The primary sources for this analysis are Miyazaki Dialectal Maps and Nobeoka-Kagoshima Glottograms.

1. はじめに

1995年5月から1998年5月にかけてほぼ4年間、宮崎県をフィールドとした言語調査に従事した。この間、宮崎県の主要都市を結ぶ方言グロットグラム調査と宮崎県を単位とした言語地理学的調査とを行った。ここではこれら2つの調査結果を紹介し、宮崎県における方言の境界線に注目し、比較を行うことにしたい。

方言グロットグラムは、言語変化を地理×年齢という枠組みでとらえようとする。地図上のある地点から別のある地点までを任意に定め、その間に線を引き、線上に位置する集落（地点）を調査対象地として定める。各地点毎に世代を異にする複数以上の話者を探し、同じ調査票に基づいて調査を行う。例えば、調査地点が20地点で各地点毎に老年層・中年層・若年層の3世代の話者に対して調査を行おうとすると、全体で計60名の話者に面接し調査することになる。このようにして得られた結果を表にプロットし、言語事象の地理的及び世代的な分布状況から、言語形式間の変化を説明しようとするものである。

これに対して、言語地理学的調査はある特定の地域に存する集落を対象にし、各集落毎にできるだけ同一に近い条件の話者（例えば、各集落の生え抜きの古老）に調査を行う。得られた結果を白地図上にプロットし、言語形式の地理的分布からその地域の言語変化の要因と言語形式の歴史的変遷の再構成を行うのが目的である。

両方法は言語の変化過程を跡づけるという点では共通しているが、グロットグラム調査では、いわば「線上の言語情報」を得ようとするのに対し、言語地理学的調査では「面上の情報」を得ようとする。グロットグラム調査では線上に位置する集落を調査対象にしていくわけであるから、地理的な観点から、例えば、ある地域の全集落を対象にしたような言語地理学的調査にはいくらか及ばない。しかし、世代差という観点から、グロットグラム調査では、調査対象地域における進行中の言語変化を地理的かつ時間的次元でとらえ、方言の地理的变化とともに世代的推移を同時に把握できるという特色がある。例えば、Xという言語形式がある特定の世代で使われる場合にこの形式はどの程度の地理的範囲をもって拡大しているか、また同時に各地点において、どの世代にその使用が集中しているかなどをグロットグラム図表により、確認することが可能である。従来、言語地理学では、項目毎での方言形式の対立を明らかにするため、「等語線」を引くことで形式間の対立を示し、また、これらを重ねることによって（等語線の束という概念で）、二つの方言（体系）の境界線を明示してき

た。グロットグラムにおいても、これと同じ方法を用いて、対立する二方言間の境界を世代という属性をも含めて示すことができる。

以下では、延岡市～鹿児島市間で行った方言グロットグラム調査結果と宮崎県下での言語地理学的調査結果とを比較することによって当地方の方言の分布や動態を明らかにしてみたい。

2. 調査概要

2-1. 延岡市～鹿児島市間方言グロットグラム調査

1996年5月～1996年12月の期間に宮崎国際大学地域言語研究会のメンバーによって行われた。調査対象地域は、宮崎県延岡市～鹿児島県鹿児島市間の国道10号線に沿った25地点である。話者は、原則として各地点4名ずつ、各地点生え抜きの方で、世代区分として、1996年5月現在、10・20代を若年層、30・40代を壮年層、50・60代を中年層、70代以上を老年層とし、計100名の方々に面接調査を実施した。調査項目数は120で、その選定については主に九州方言学会編(1969)『九州方言の基礎的研究』、九州方言研究会『九州方言調査項目(案)』(1994)、九州方言研究会編(1996)『九州方言研究会報告書』に掲載)等を参考にした。

2-2. 宮崎県言語地理学的調査

当調査は、1995年5月～1998年5月の期間に宮崎国際大学地域言語研究会のメンバーによって行われた。調査対象地域は宮崎県全市町村で最終的に120地点を網羅した。但し、各市町村につき、数地点を調査したにすぎない。また、調査期間中にグロットグラム調査を行ったためにこの調査を約1年間中断した。グロットグラム調査を終了したあと、調査票を大幅に改訂し再開した。したがって調査地点は項目によって異なる。調査の対象は各地点の老年層(70歳以上)の生え抜き話者1名である。

3. 調査結果の比較

3-1. 国道10号線沿いにみた日向方言と薩摩方言の境界について

グロットグラム調査において、方言の地理的対立の例として、全調査項目の中から、以下に掲げた項目は、日向方言と薩摩方言との分布上の対立を示したものばかりである。これら以外の多くの項目にも、分布上、地理的対立

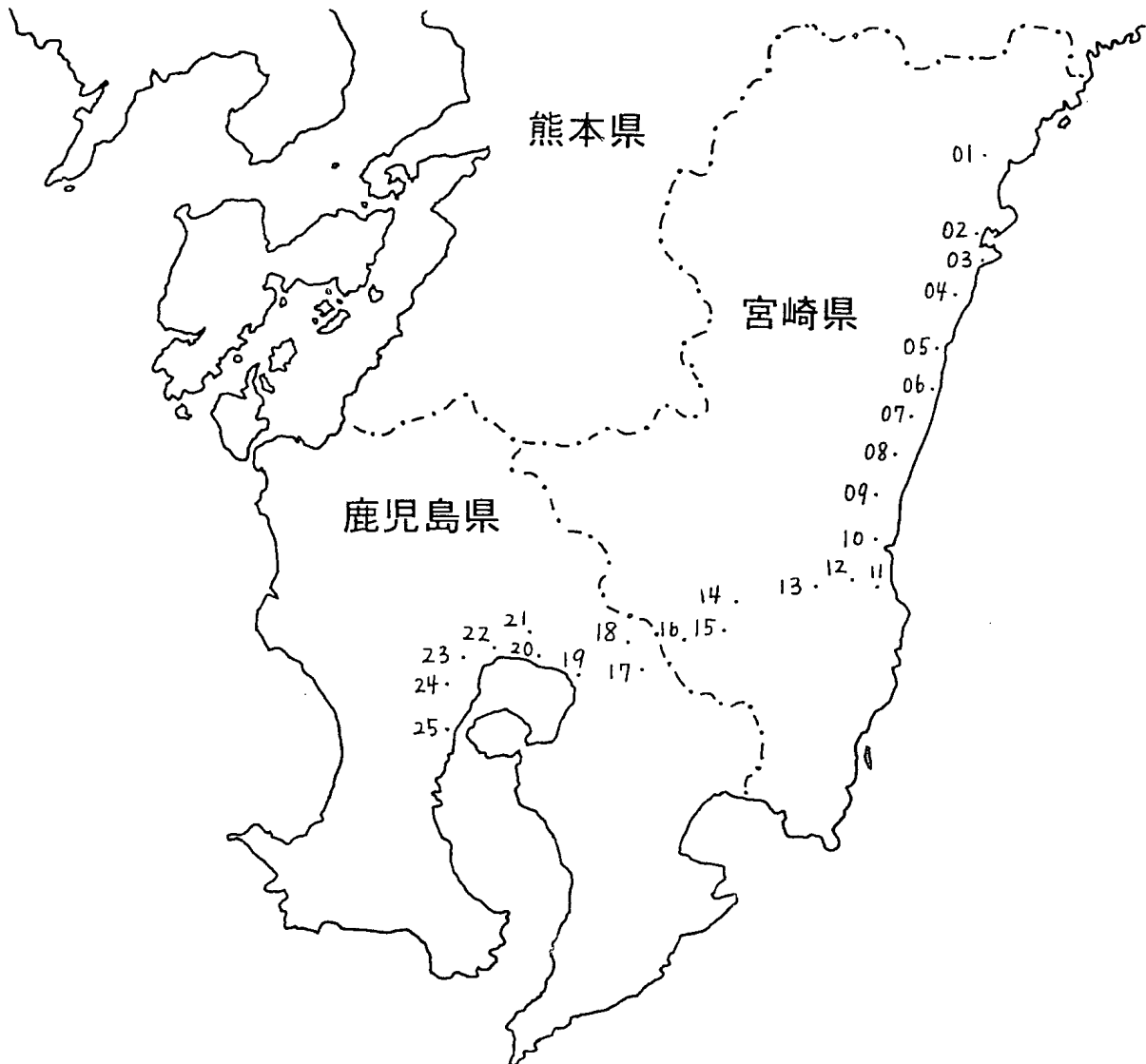
2. 調査地域 (調査地点図)

宮崎県

0 1	延岡市旧市内	0 2	門川町	0 3	日向市細島
0 4	日向市美々津	0 5	都濃町	0 6	川南町
0 7	高鍋町	0 8	新富町	0 9	佐土原町
1 0	宮崎市旧市内	1 1	宮崎市木花	1 2	清武町
1 3	田野町	1 4	山之口町	1 5	三股町
1 6	都城市旧市内				

鹿児島県

1 7	末吉町	1 8	財部町	1 9	福山町
2 0	国分市	2 1	隼人町	2 2	加治木町
2 3	姶良町	2 4	吉田町	2 5	鹿児島市



を示すものも多いが、ここでは、とりあえず、日向・薩摩両方言の明らかな対立であると思われる項目を列挙した。これらの項目のうち、大半のものは、方言の境界線が宮崎・鹿児島両県の県境とは一致せず、宮崎県側に入り組んでいることが分かる。宮崎県側の宮崎郡田野町（地点番号13）と北諸県郡山之口町（地点番号14）の間の青井岳がまさに両方言の境界を示す目印であるといえる。この境界については、早くから地元の人々や先学諸氏によって注目されてきたが、この境界に焦点を当てた報告は未だ皆無である。ただ、日向・薩摩両方言の境界は、殊更、この境界だけを強調すべきではなくて、田野町北部に位置する東諸県郡高岡町から西諸県郡野尻町間、同様に北諸県郡高城町から西諸県郡高崎町の間、更には須木村から小林市・えびの市の間ラインとして結ばれているわけで、両方言の境界線は、宮崎県言語地図から明らかとなった。

3-2. 日向・薩摩両方言の分布上の対立

日向・薩摩両方言の対立が際立って認められると思われる項目は、のちに示したグロットグラム図¹⁾である。これらは、音声・音韻項目、表現法(文法・待遇表現法)、語彙等の各分野にわたっており、この対立の溝が深いことを窺わせる。以下、各項目毎の「グロットグラム調査」の結果と「宮崎県言語地図」との結果を便宜的に次のように分類する。

- (1) 音韻・音声項目として、「耳」(〔図1〕・【表1】)～「起きる」(〔図6〕・【表6】)
- (2) 表現法項目として、「起きることができない」(〔図7〕・【表7】)～「ヨカ」(〔図12〕・【表12】)
- (3) 語彙項目として、「たくさん」(〔図13〕・【表13】)～「麦粒腫(ものもらい)」(〔図16〕・【表16】)

グロットグラム図の各項目名及び質問については、各表毎に記してある。また、ここでは掲げなかった多くの項目において、延岡市から鹿児島市にかけて広く分布し、地理的な対立こそ認められないが、世代差が顕著な項目も多い。あくまでも地理的対立と同時に世代差が認められた項目だけを掲げるので、ここでは今回取り上げない。

1) これらの項目以外にも、両方言が対立していると思われるものが何項目かあるが、例えば、音韻・音声項目等において、重複しているものが多いので、それらの調査結果については、宮崎国際大学・地域言語研究会編(1997.3)を参照されたい。

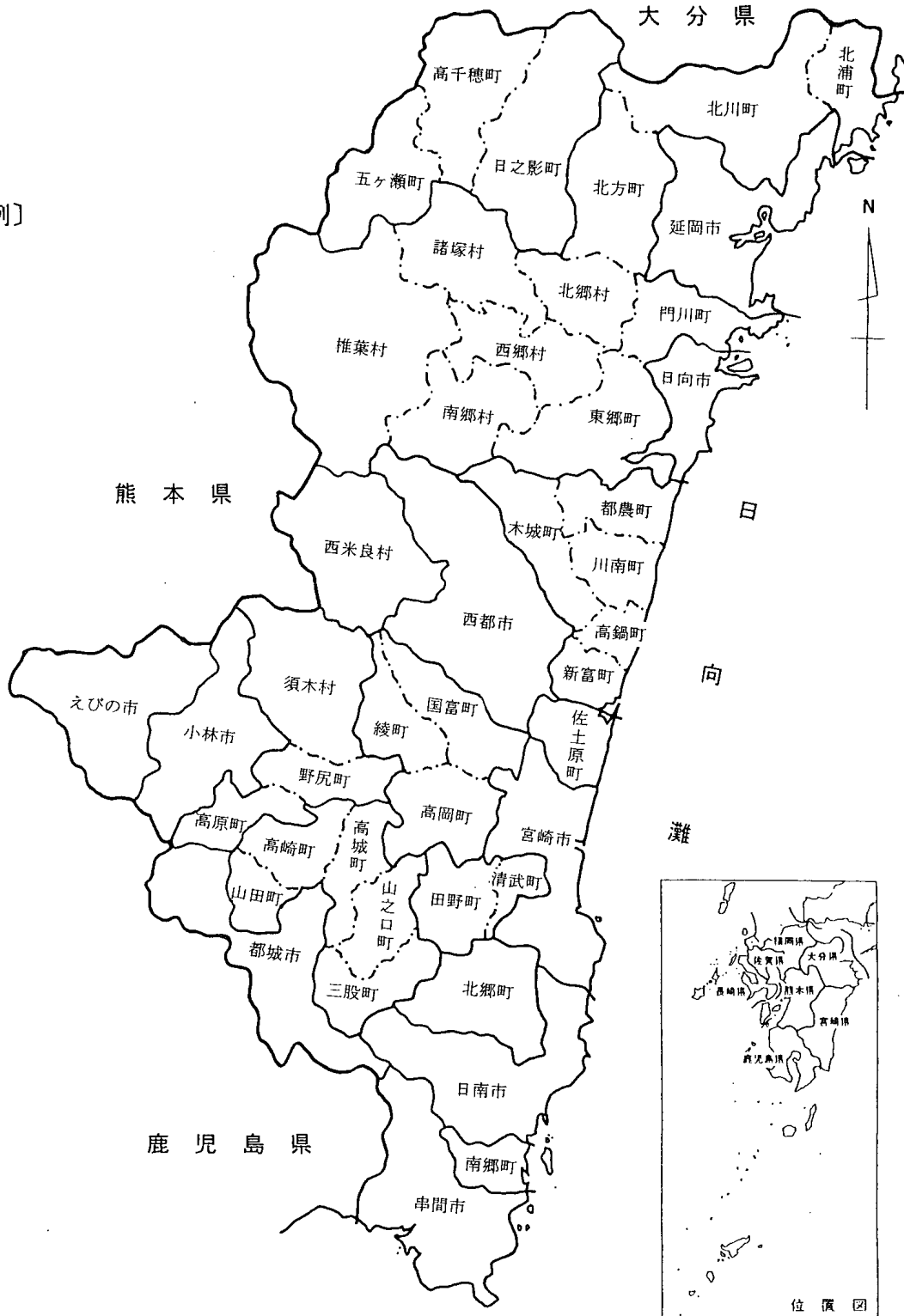
宮崎県市町村地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[凡例]



言語地図の方にはグロットグラム図では方言形式間の分布が反映しなかった多くの項目があるが、今回はグロットグラム図の結果に沿ってみることにとどめたい。

また、他の項目の中には、項目間相互で関連性のあるものが含まれている。例えば、音声項目として、AI・OI・UI等の連母音関連項目、場面差に応じての待遇・依頼表現関連項目²⁾、断定表現関連項目³⁾等、それぞれ様々な角度からアプローチが可能だが、これらも全て別の機会に譲る。

3-3. 各項目毎の方言形式の対立 (地域差×世代差)

グロットグラム調査の結果を【表】と言語地図の結果を〔図〕として以下に示し、比較することにする。

3-3-1. 音韻・音声面での対立

南九州各地では音節のリズムの単位が東京や京都などモーラ（拍）を単位とした方言とは異なり、シラブル（音節）を単位としているという特色がある。

この特色は東北方言とも共通しており、日本語の音節構造の古層を思わせるものである。

宮崎県方言において、延岡市などの宮崎県北部方言がモーラを単位とする方言であるのに対して、小林市、都城市などの西諸県の方言では鹿児島方言と同様、シラブルを単位とする方言ということができよう。ところが、この中間に位置する日向市方言や宮崎市方言、すなわち、日向地方の諸方言については、一般的にこの方面からの調査が進んでいないというのが現状である。上記、これまでの2つの調査においても、調査項目自体が語彙・表現法など多岐に亘ったために、音声・音韻に関わる項目が少なく、宮崎県各地の実態がモーラ的かシラブル的であるかを云々するには時期尚早であるといわなければならない。ただ、今後、本格的な音韻調査を展開するにあたって、一定の目安となる基礎的な資料となれば本望である。

2) この部分については、平成10年5月に第66回日本方言研究会研究発表（於白百合女子大学）で「宮崎における依頼表現の使い分けについて」という題目で口頭発表する機会を得た。

3) このケースについては、既に、拙稿「宮崎方言の地域差と世代差—指定の助動詞「だ」・「じゃ」・「や」をめぐる—」（九州方言研究会編（1969）『九州方言研究会報告書』所収）で考察した。

(1) 「耳」 ([図1])・【表1】

ミミ対ミンの対立。薩摩方言では、「耳・右・水」の語末が撥音化する傾向がある。凡例中、ミンジャマ、ミンチャバ、ミンクラ、ミミナバ等はいずれも「耳朵」を答えたもの。世代差として、若年層では、この対立が消滅寸前である。個別語彙的な例外としては、日向方言においても「犬」はイン。言語地理学的見地からは、日向方言においても、このような薩摩方言的な特徴がいくつかみられる。詳細は後述する。

(2) 「口」 ([図2])・【表2】

クチ対クツの対立。薩摩方言の最大の特徴といわれる促音化現象を後藤和彦(1961)・木部暢子(1997)などから示すと、次の3つに分類できる。

①語末の促音化

狭母音を持つキ・ギ・ク・グ・ズ・チ・ツ・ビ・ブ・ルなどは無声化を経て脱落して生じたもの。「柿・鍵・書く・嗅ぐ・数」はKAT、「口・首・靴」はKUT。

②語中の促音化

「行くまい」イッマイ、「かき集める」カッアムムッ、「狐」キッネ、「垣根」カッネなど。

③語中で濁音の前に現れる促音化

「国語」コッゴ、「役場」ヤッバなど。

前項同様、グロットグラム図【表2】では山之口町を境にして、以北ではクチ、以南ではクツで対立しており、言語地図[図2]でも、山之口町・都城市・小林市などの諸県地方にはクツが、それ以外の日向方言域ではクチが分布している。宮崎県下での促音化現象の分布を示したものがこの他に数項目あるが、「口」の分布とほぼ同様であると思われる。

(3) 「行くな」 ([図3])・【表3】

イクナ対イッナ・インナの対立。イクナ対イッナの分布の対立は、前項の「口」のクチ対クツの分布と酷似している。

山之口町以南では、イッナとインナとの地理上の分布対立は認められなかった。イッナの促音は、声門閉鎖性が強く、入破音・入声音とも呼べる(後藤和彦(1961)・上村孝二(1973)ほか)ものである。

(4) 「クイマ(車)」 ([図4])・【表4】

「車」をクイマというかどうかの対立。語中尾におけるラ行子音が弱いことによって生じる脱落現象は、田野町以北の日向方言域では皆無である。これも薩摩方言的特徴の一つで、「蟻」アイ、「針」ハイなど、ほぼ規則的

であるといえる。

(5) 「書いた」(〔図5-1〕・〔図5-2〕・【表5】)

薩摩方言では、AI連母音は〔e〕となる傾向がある 例、アケ(赤い)。これに対して、日向方言では、AI連母音は〔e〕乃至〔e:] 例、アケ、アケー(赤い)。熊本県境に近い西臼杵郡にはこれらに対して、アキヤー〔akæ(:)〕、アクー〔akϕ:]などの融合形が観察される。

〔図5-1〕は、主にこの連母音の融合に着目して、地図化した結果である。全県的にケタ類(ケータを含む)が優勢である。際立った地理的対立も窺うことができない。そこで、〔図5-2〕に示したように、ケタと短呼される場合と、ケータと延ばして発音する場合とで地図化をしてみると、宮崎県北部に、ケータが多く分布するのに対して、宮崎県中部以南では、ケタが分布しているのが分かった。この対立は、同様に【表5】の結果からも支持される。「書いた」の項目以外に両調査では「飛んだ」、「飲んだ」、「研いだ」、「漕いだ」、「沸いた」等の項目を含め聞いているが、いずれも共通語形式の回答(すなわち、トンダ、ノンダ、トイダ、コイダ、ワイタ)が多いため、長母音が短呼されるかどうかは項目によって確認することが難しい。全般的に「書いた」の場合と同様、短呼化は宮崎県中部以南に見られる。

ここで注目しておきたいのは、この地理的に対立した分布はこれまでの項目の分布対立と異なり、宮崎県の中中部あたりにまで、薩摩的な特色が及んでいるという事実である。ケタかケータかは音節数としては変わりがないが、モーラ数としては異なることになる。問題は長音に対する意識が宮崎県北部では比較的明瞭である(例えば、ケータとしか言わない、ケタとはならないと報告する話者が多い)のに対して、中部以南ではこの意識が曖昧であり、ケタでもケータでもよいとする話者(例えば宮崎市内など)の内省報告もある。ところが宮崎県南部に位置する都城市や西諸県各地ではケータとはならず、ケタとなる。

(6) 「起きる」(〔図6〕・【表6】)

オクル・オケル対オキッの対立。薩摩方言では、日向方言で有力な下二段活用の残存形のオクルはオクッという形式としても現れない。因みに、『九州方言の基礎的研究』(1969)154頁の「起きる」の分布地図においても、ほぼ同様の結果となっている。興味深い点は、両方言の境界域にある田野町の若・中年層がこのオクッを使用していることである。まさにオクッは中間地帯に生じ得る形式である。

上記、6項目はいずれも日向方言と薩摩方言とを分かつ特色という共通点があるが、拍・音節という音単位の上で注目すべき共通点がある。

一般に日本語の拍 (mora) と音節 (syllable) の数え方は異なると言われている。例えば、トクシマやヒロシマは4モーラ、4音節であるが、トキョーは4モーラ2音節である。シンブン (新聞) の場合も、4モーラ、2音節である。カッタ (買った・刈った・勝ったなど) の場合も拍数では3モーラであるが、音節数では2音節である。先に少し触れたが、モーラを単位にするか、シラブルを単位にするかは全国諸方言で違っている。柴田武氏は、東京や大阪など、本州中央部では大半の方言がモーラを基本しているため、モーラ方言と名付けられた。一方、東北地方や南九州地方、及び山陰(出雲地方)、石川県能登半島などはシラブルを基本としている方言であることからシラビーム方言と呼ばれた。

上記、6項目で、「耳」のミン、「口」のクッ、「行くな」のイッナ・インナ、「車」のクイマ、「書いた」のケタ、「起きる」のオキッは、いずれも薩摩方言で顕著な音声変化であり、シラビーム方言を特徴付ける形式である。これらの形式はシラビーム方言という条件の下で生じた音声変化であると言えることができるかもしれない。

グロットグラムの結果によると、若年層においてはこれらの傾向がほとんどなくなり、日向方言化が進行している。すなわち、薩摩方言域の諸県地域の若年層ではシラビーム方言からモーラ方言へと変化しつつあるということができる。

3-3-2. 表現法の上での対立

音声・音韻のところでも示したように、文法表現などにおいても、西諸県地方以南が薩摩方言に近い形式が用いられるのに対して、以北は日向的である。すなわち、文法項目に関しても、宮崎県下での境界線は音声・音韻の境界線とほぼ合致する。

以下では、両調査結果から、対立が際立っている項目をピックアップし、紹介することにしたい。

(1) 「起きることができる」(〔図7〕・【表7】)

グロットグラム図では山之口町以北のエーオクル・ヨーオクルなどの形式と以南のオキガナイとの対立が窺える。ここでは能力可能の形式について聞くことにした。これまでも既に指摘があるが、当地域では能力可能と状況可能との使い分けは概して曖昧である。

分布対立の状況は、両結果ともこれまで掲げた音声項目の結果とほぼ同じとみてよい。ただ、グロットグラム結果から若年層ではこの対立が消失する方向に向かっており、宮崎県全域でオキレル系に移行しつつある。

(2) 「起きることができない」(〔図8〕・【表8】)

ヨーオキン・ヨーオケン・ヨーオキラン・エーオキン等対オキ(一)ガナラン・オキ(一)ヤナラン等の対立がみられる。ここでも前項目と同様、能力可能打ち消しの形式を聞いた。オキ(一)ガナランは、「起きることがならぬ」という意味であり、先の肯定形では、オキ(一)ガナイ(「起きることがなる」)でいずれも薩摩方言に共通する形式である。

しかし、ここにおいても中年層以上での在来形式の対立は、若年層で消失し、オキレン・オキラレンなどの形式に移行してきている。

(3) 「持っているから(順接)」(〔図9〕・【表9】)

理由を表す接続助詞について聞いた結果である。～カイ対～デで分布が対立しており、宮崎・鹿児島県境とほぼ一致している。若年世代では、共通語化が全域で進行しており、～カラを使用するようになってきている。この対立の状況については『九州方言の基礎的研究』(1969)171頁に地図化されており、今回の調査結果とほぼ一致するとしてよい。

(4) 「帰るけれども(逆接)」(〔図10〕・【表10】)

ここでは逆接の助詞についての結果を示した。グロットグラム調査結果から～ケンドン及び～ケンと～ドンの境界は田野町と山之口町付近で、この対立も日向方言域と西諸県方言域を分かつ。

日向方言域では、

ケンドン→ケンド→ケド

薩摩方言域では、

ドン→ケド

といった世代変化が認められる。若年世代では、従来の方言対立がなくなり、全国共通語形～ケドに収束してきている。なお、『九州方言の基礎的研究』(1969)172頁の地図によると、薩摩方言域の～ドンの分布は日向方言域に相当張り出している。

(5) 「『ヨカ』を使うか」(〔図11〕・【表11】)

「良い」をヨカというかどうかについて聞いたものである。この場合の境界は、グロットグラム図の三股町(調査地点15)でこの地以南の地域でヨカが使用される。言語地図の分布もこの結果を裏付けている。瀬戸口俊治氏⁴⁾によると、薩摩方言域では一般に薩摩半島にカ語尾が多く、大隅半島

ではイ語尾が多いという特色があるが、他の3音節語以上の形容詞等に比較して、ヨカはその分布領域が鹿児島県全域に及んでいるほか、宮崎県下でも西諸県地方で用いられる。日向方言域では、イーが圧倒的に優勢であり、エーは美々津・細島に認められる程度である。

(6) 「シロカ」(〔図12〕・【表12】)

シロカ(白い)使用の有無の対立である。山之口町以南で、特に壮・老年層にシロカが用いられる。ヨカに比較して、中・若年層でのシロカの衰退が著しいといえるだろう。一般にカ語尾形容詞の使用は、語(主に音節数によるか)によって分布が異なる。これ以外に言語地図では「危ない」のアブナカ(図省略)を問うたが、宮崎県内での使用はほとんど認められなかった。県内では前項のヨカ及び3音節形容詞が西諸県地方で用いられるほかは、イ語尾形容詞が断然優位であるといえる。

3-3-3. 語彙上での対立

(1) 「魚がたくさん取れた」(〔図13〕・【表13】)

ギョーサン・テゲとズバ(ッ)・ワッセの対立。日向・薩摩両方言で異なった世代変化が別個に行われる項目である。日向方言では、北部でギョーサンからイッペへ、中・南部ではギョーサンからテゲへ移行する傾向が見られる。一方、薩摩方言域では、ズバ(ッ)からワッセへの変化が認められる。すなわち、日向・薩摩両方言でギョーサンとズバ(ッ)の対立はテゲとワッセへの対立に移行している。因みに、宮崎市方言では、テゲの意味が「だいたい」から「非常に」の意味に老年層から若年層にかけて変化してきている⁵⁾。また、テゲは、ヨダキーと並んで宮崎市方言の代表的存在であるが、太田一郎氏によると⁶⁾、ワッセも鹿児島市方言では、最も方言らしいと意識される(方言の認識度が高い)形式であるという共通性がある点は興味深い。

(2) 「すごく美味しい」(〔図14〕・【表14】)

テゲとワッセの対立。前項目とよく似た結果を示す。但し、前項目での

4) 瀬戸口俊治(1987)「南九州方言の研究」和泉書院 9頁-26頁

5) 岸江信介(1996)「宮崎方言の動向」(『比較文化研究』第2号・宮崎国際大学研究紀要)参照。

6) 太田一郎(1996)「3標準語志向と方言志向」(陣内正敬(1996)『地方中核都市方言の行方』おうふう所収)。

壮・老年層のギョーサンとズバ（ッ）の対立はここでは目立たない。これら両項目の形式は、日向・薩摩両方言において、もともと使い分けがあったと思われるが、これらは、日向方言ではテゲに、薩摩方言ではワッセに統一される傾向にある。また、これは世代差と密接な関連があり、若年層ほどこの傾向が著しいといえる。

(3) 「肩車」(〔図15〕・【表15】)

語彙的には、日向方言域内部にも、更に対立を示すものがいくつか確認出来ている。ここでは宮崎県北部の延岡市付近にテングルマ類、宮崎市近辺にビピンコ類、都城市及び宮崎県南西部の小林市あたりにはピンズイ類が分布する。これらの分布から県下の各々の都市が中心とした方言形式の分布圏をみてとる事が可能であろう。次の麦粒腫（ものもらい）の方言もこの点ほぼ同様である。

(4) 「麦粒腫（ものもらい）」(〔図16〕・【表16】)

宮崎県北部地方には、主にインノメ類、宮崎市付近にメイボ、メバチコ、都城市付近にメモレ類が分布しており、各形式の分布は前項で示した分布圏とほぼ重なる。

4. おわりに

延岡～鹿児島市間方言グロットグラム調査報告と宮崎県言語地図で共通する項目の比較を通じて、日向・薩摩両方言の対立の状況を主に方言形式の境界という視点で報告した。グロットグラム図では田野町と山之口町の間での対立が存することを確認できたが、更に言語地図からは、その対立が線上ではなくて、面の上で再確認できたと思う。諸県地方と日向地方との境界については、本文でも触れたように、これまでの報告や地元の方々の内省から既に明らかになっていたが、方言研究を実証的立場からすすめたいという気持ちが先行し、さほど新しい指摘もないまま、このような拙い報告となった。

ただ、これまで宮崎県下では九州の他県と比較して、方言の調査研究が遅れていたことなどから、ここで示したグロットグラム調査結果と言語地図がこれからの宮崎県下での方言研究の引き金になれば有難いと思う。

5. 参考文献

後藤和彦(1961)「三 方言の実態と共通語化の問題点 5 鹿児島・宮崎南部」

- (『方言学講座』第4巻 九州・琉球方言) 東京堂
九州方言学会編(1969)『九州方言の基礎的研究』風間書房
上村孝二(1961)「二 九州琉球方言の語彙 2 南九州」(『方言学講座』第4巻 九州・琉球方言) 東京堂
上村孝二(1973)「九州方言の概説」(『講座方言学 9 九州地方の方言』国書刊行会)
瀬戸口俊治(1987)『南九州方言の研究』和泉書院
柴田武(1988)『方言論』平凡社
木部暢子(1995a)「方言の転換期—「からいも普通語」の位置づけ—」(田中邦夫編『パラダイム論の諸相』鹿児島大学法文学部)
木部暢子(1995b)「方言から『からいも普通語』へ」月刊『言語』別冊24-12
木部暢子(1997)『鹿児島県のことば』(日本のことばシリーズ 46) 明治書院
木部暢子・太田一郎・中島祥子(1995)「鹿児島市方言における新しい動き」(『第60回日本方言研究会発表原稿集』)
陣内正敬(1996)『地方中核都市方言の行方』おうふう
九州方言研究会編(1996)『九州方言研究会報告書』九州方言研究会
岸江信介(1996)「宮崎方言の動向」(『比較文化研究』第2号・宮崎国際大学研究紀要)
岸江信介(1998)「南九州方言におけるダヨー・デスヨのネオ方言的性格について」(『九州方言におけるネオ方言の実態』平成7年度—平成9年度科研費成果報告書 研究代表者 真田信治)
岸江信介・四位隆志(1998)「宮崎方言における依頼表現の使い分けについて」(第66回日本方言研究会発表原稿集)
宮崎国際大学・地域言語研究会編(1997)『延岡市～鹿児島市間方言グロットグラム調査報告』
宮崎国際大学・地域言語研究会編(1998)『宮崎県言語地図』

宮 崎 県 言 語 地 図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項 目

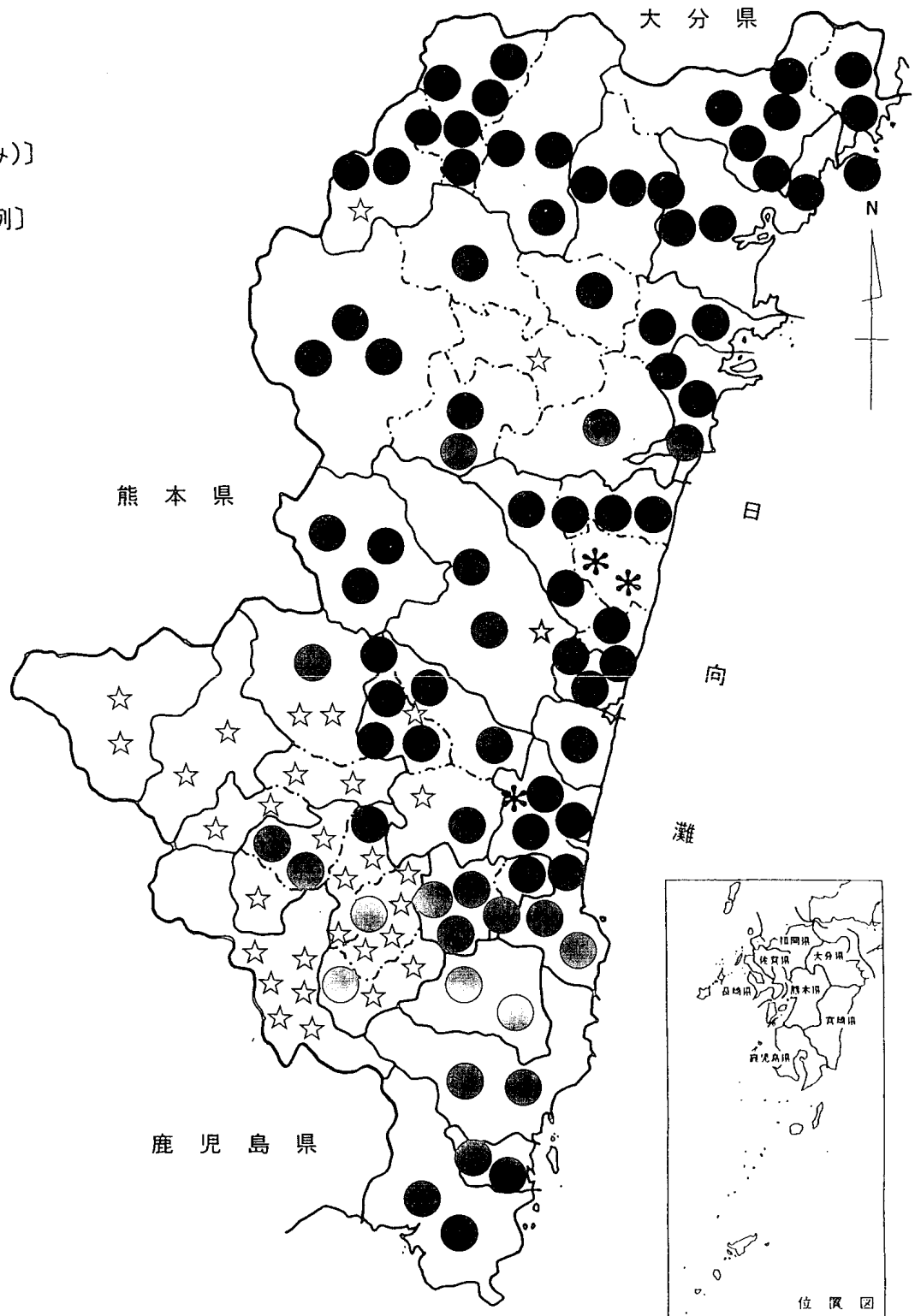
[耳 (みみ)]

[凡 例]

* ナバ

● ミミ

☆ ミン



〔図1〕

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目 [耳 (みみ)]

質問：(耳を指さして) これを何と言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	/	/	/	/	
02	宮崎県門川町	/	/	/	/	● ミン
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/	
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/	▼ ミンチャバ
05	宮崎県都濃町	/	/	△	/	
06	宮崎県川南町	▽	▽	/	/	▲ ミンジャマ
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/	
08	宮崎県新富町	/	/	△	/	◆ ミンハ
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	/	
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	/	/	■ ミンクラ
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	/	/	
12	宮崎県清武町	/	/	/	/	/ ミミ
13	宮崎県田野町	/	●	/	/	
14	宮崎県山之口町	▼	▼	▼	/	△ ミミナバ
15	宮崎県三股町	■	●▼	/	●	▽ ナバ
16	宮崎県都城市	▼	▼	▼	/	
17	鹿児島県末吉町	▼●	▼	▼	/	
18	鹿児島県財部町	▼	▼	▼	▼	
19	鹿児島県福山町	▼	▲	▼	/	
20	鹿児島県国分市	●	●	●	◆	
21	鹿児島県隼人町	●▼	●	●	/	
22	鹿児島県加治木町	▼	▼	/	/	
23	鹿児島県始良町	●	●	/	/	
24	鹿児島県吉田町	●▼	●▼	/	/	
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	/	

【表1】

宮 崎 県 言 語 地 図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目番号 [07]

項 目

[口 (くち)]

[凡 例]

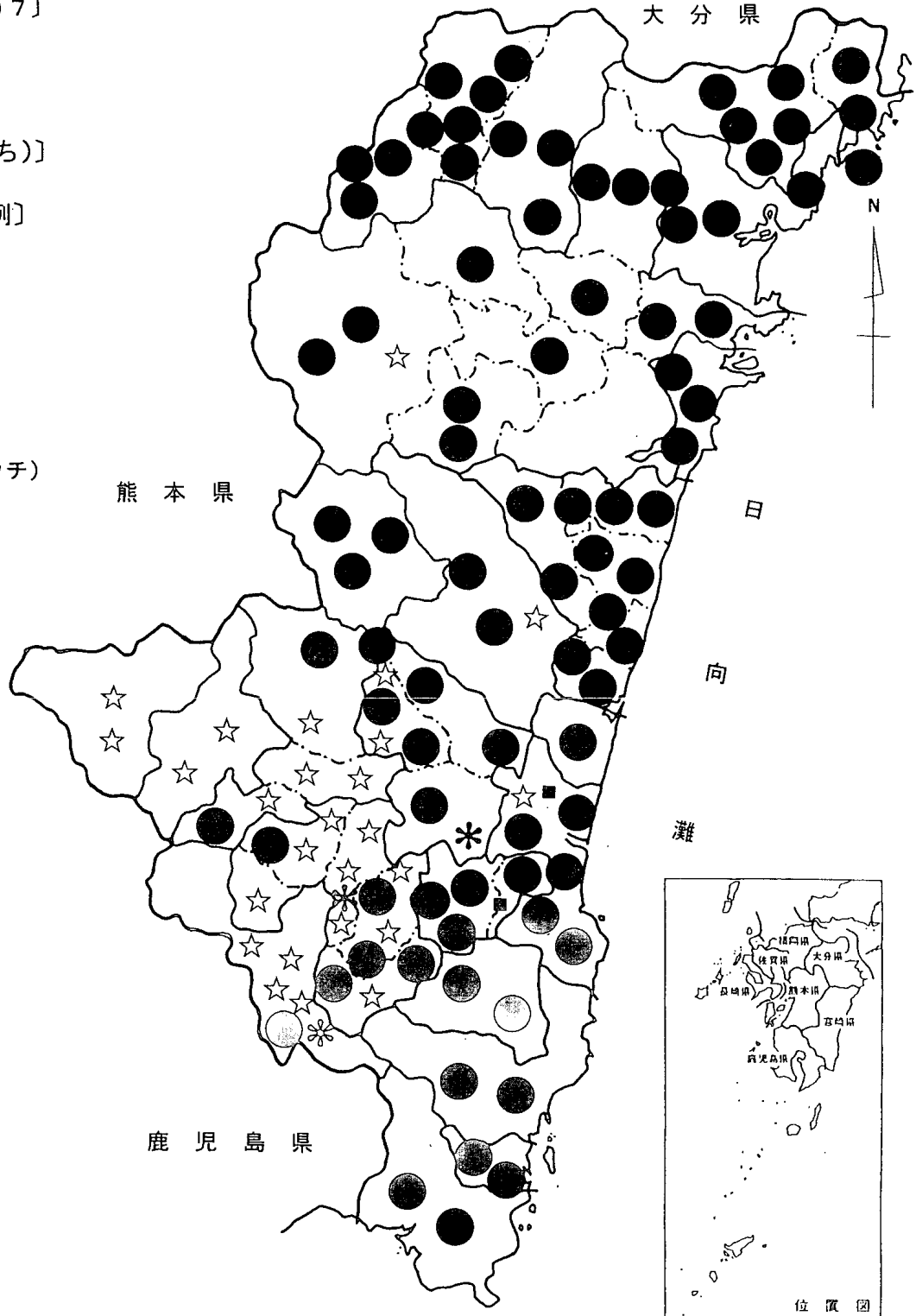
● クチ

☆ クツ

(クッチ)

■ スバ

* スゲ



[図 2]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 口（クチ） 〕

質問：（口を指さして）これを何と言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	/	/	/	/	
02	宮崎県門川町	/	/	/	/	● クツ
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/	
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/	■ クッチ
05	宮崎県都濃町	/	/	/	/	
06	宮崎県川南町	/	/	/	/	▽ スバ
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/	
08	宮崎県新富町	/	/	/	/	/ クチ
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	/	
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	/	/	
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	/	/	
12	宮崎県清武町	/	/	/	/	
13	宮崎県田野町	/	/	/	/	
14	宮崎県山之口町	●/	●	/	/	
15	宮崎県三股町	●	■	/	/	
16	宮崎県都城市	●	●	●	/	
17	鹿児島県末吉町	●	●	●	/	
18	鹿児島県財部町	●	●	/	●/	
19	鹿児島県福山町	/	●	●	/	
20	鹿児島県国分市	●/	●	●	/	
21	鹿児島県隼人町	●	●	●	/	
22	鹿児島県加治木町	▽	●	/	/	
23	鹿児島県始良町	●	●	/	/	
24	鹿児島県吉田町	●/	●	/	●	
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	●	

【表2】

宮 崎 県 言 語 地 図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目番号 [24※]

項 目

[行くな]

[凡 例]

◇ イカレンヤ

▲ イカンドケ

★ イキナンナ

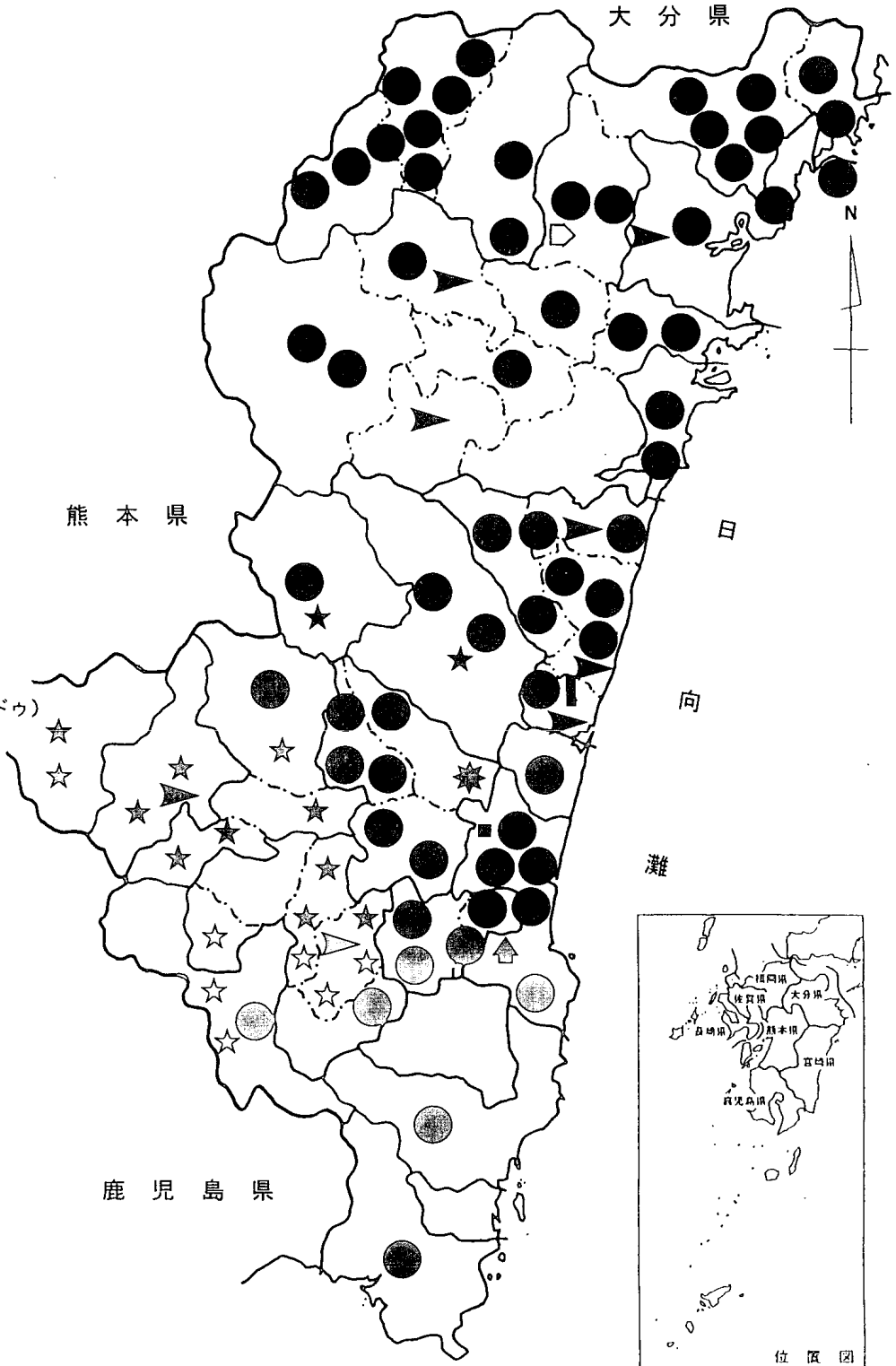
● イクナ

◻ イケンド

▶ イッタライカン類
 (イタライカン)
 (イタライカンド)
 (イッカイジャガ)
 (イッチャイカンドウ)
 (イットイカンド)

☆ イツナ類
 (イツナヨ)
 (イナ)
 (インナ)
 (イツメ)

□ その他
 (イカンガッタ)



[図 3]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 行くな 〕

質問：それでは、「危ないから行くな」と強く言う場合、「行くな」をどういいますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	◇	/	/*	/
02	宮崎県門川町	/	/	/	/
03	宮崎県日向市細島	/□	/	/◎	/
04	宮崎県日向市美々津	/□	◎	/◎	/
05	宮崎県都濃町	/	☆	+	/
06	宮崎県川南町	/	/	/	◇
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/
08	宮崎県新富町	/	/	/*	/
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	/	/
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	△	/
12	宮崎県清武町	/	/	/	/
13	宮崎県田野町	/	/	◇	/
14	宮崎県山之口町	/○▼	▼	○▼	/
15	宮崎県三股町	/▼	▼	※	※
16	宮崎県都城市	▼	△	△	/
17	鹿児島県末吉町	▼	▼	▼	▼※
18	鹿児島県財部町	▼	▼	▼	/△
19	鹿児島県福山町	▼	▼	▼	/
20	鹿児島県国分市	○△=	▼	△	☆
21	鹿児島県隼人町	▼	▼	▼	☆
22	鹿児島県加治木町	▼	▼	※	/
23	鹿児島県始良町	=	▼	/	/△
24	鹿児島県吉田町	▼	△	△	▼
25	鹿児島県鹿児島市	△	△	▼	△

凡例

- / イクナ
- イカン
- ◇ イタライカン
- イットイカン
- ◎ イクトイカンド
- ☆ イツチャイカンド
- ▼ イツナ
(イツナネ)
- △ インナ
- * イキナンナ
- ※ イキャンナ
- = イカンドケ

【表3】

宮 崎 県 言 語 地 図

1998

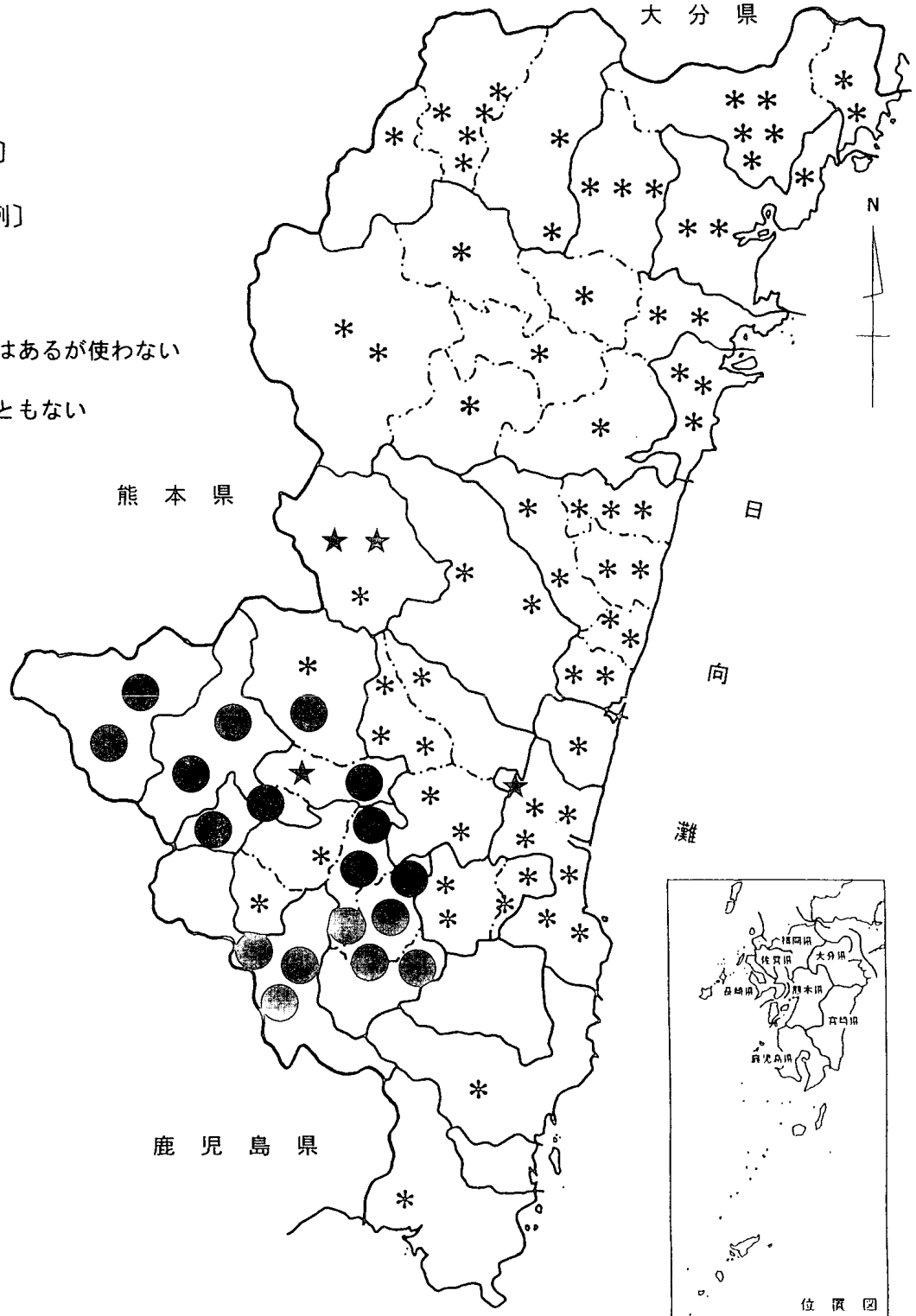
宮崎国際大学・地域言語研究会

項 目

[クイマ]

[凡 例]

- 使う
- ★ 聞くことはあるが使わない
- * 聞いたこともない



[図 4]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目 [クイマ]

質問：「車」のことを「クイマ」いうことがありますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	/	/	/	/
02	宮崎県門川町	/	/	/	/
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/
05	宮崎県都濃町	/	/	/	/
06	宮崎県川南町	/	/	/	/
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/
08	宮崎県新富町	/	/	/	/
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	/	/
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	/	/
12	宮崎県清武町	/	/	/	/
13	宮崎県田野町	/	/	/	/
14	宮崎県山之口町	●	●	●	/
15	宮崎県三股町	●	●	●	▽
16	宮崎県都城市	●	●	●	/
17	鹿児島県末吉町	●	●	●	▽
18	鹿児島県財部町	●	●	●	●
19	鹿児島県福山町	●	●	●	/
20	鹿児島県国分市	/	●	●	/
21	鹿児島県隼人町	●	●	●	●
22	鹿児島県加治木町	●	●	/	/
23	鹿児島県始良町	●	●	▽	/
24	鹿児島県吉田町	●	●	▽	▽
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	●

凡 例

● 使用する

▽ この地域で使用するが、
自分は使わない

/ この地域では使わない

【表4】

宮 崎 県 言 語 地 図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項 目

[書いた(1)]

[凡 例]

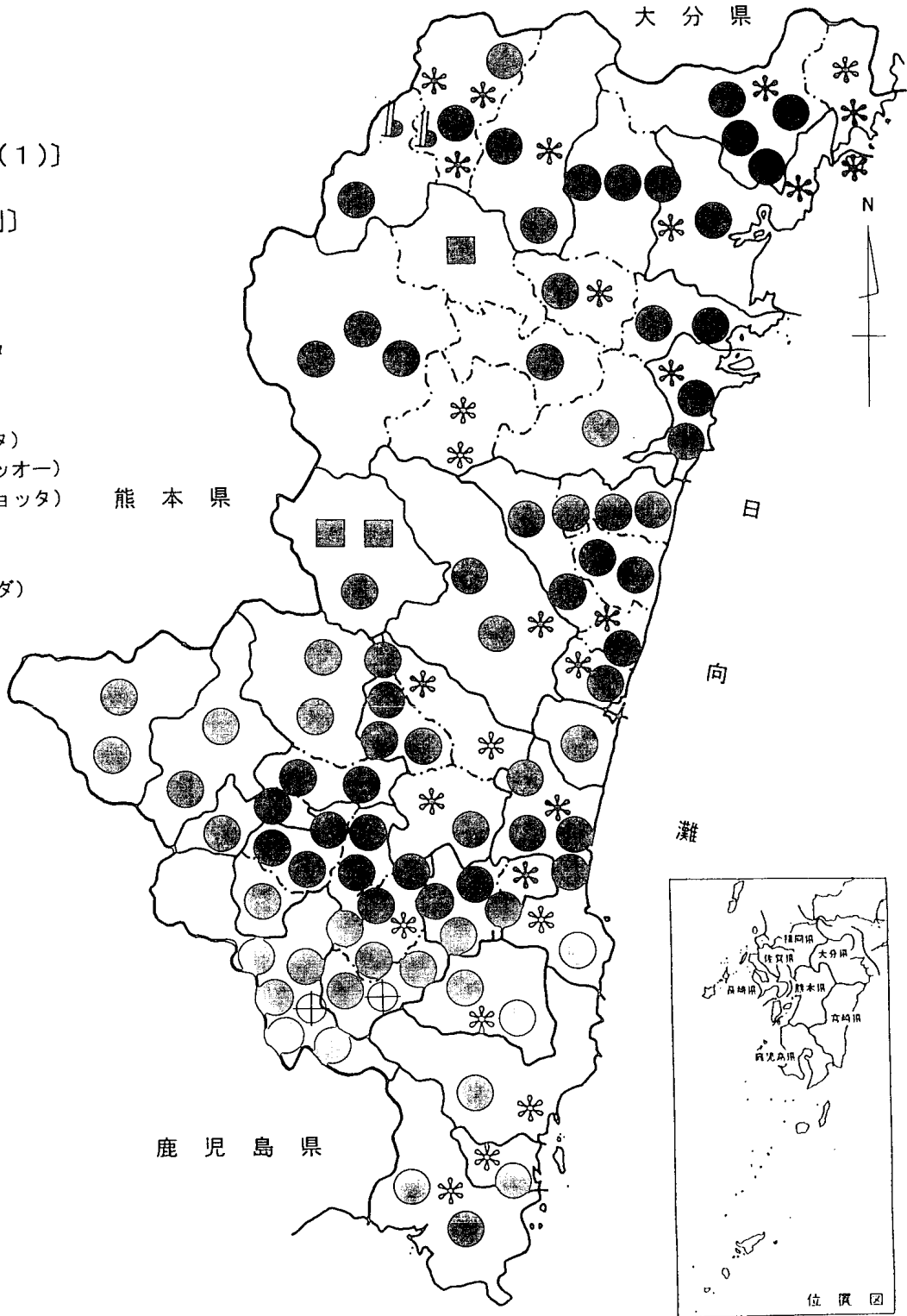
* カイタ

■ キャータ

● ケタ類
(ケータ)
(ケタッオー)
(ケチヨッタ)

⊕ ケダ類
(ケーダ)

⊥ ケータ

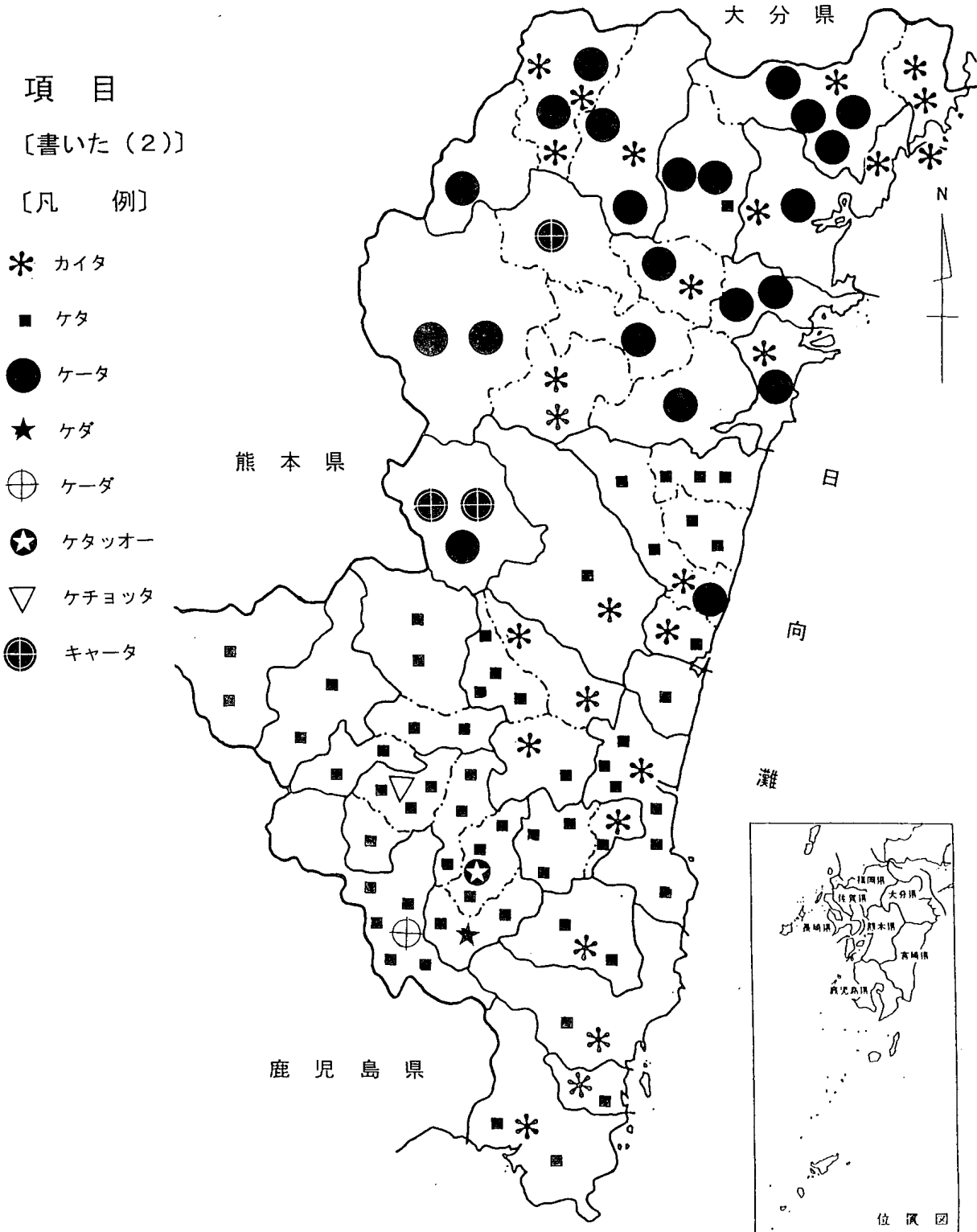


[図5-1]

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会



〔図5-2〕

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔書いた〕

質問：それでは、「きのう手紙を書いた」という場合、「書いた」
のところをどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	▽	▽/	/	/
02	宮崎県門川町	▲▽	▽	▲▽	=
03	宮崎県日向市細島	/	▽/	/	/
04	宮崎県日向市美々津	▲/	/	/	/
05	宮崎県都濃町	▲	/	/	/
06	宮崎県川南町	△	△	△	△/
07	宮崎県高鍋町	/	▲/	/	/
08	宮崎県新富町	/	▲	/	▲
09	宮崎県佐土原町	▲	/	/	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	▲	/	/	/
11	宮崎県宮崎市木花	▲	▲	△	/
12	宮崎県清武町	/	▲	/	/
13	宮崎県田野町	▲	▲	/	/
14	宮崎県山之口町	▲	▲	△	/
15	宮崎県三股町	▲	▲	△	/
16	宮崎県都城市	△	△	△	/
17	鹿児島県末吉町	△	△	△	/
18	鹿児島県財部町	△	△	△☆	/
19	鹿児島県福山町	△	△	△	/
20	鹿児島県国分市	△	△	△	/
21	鹿児島県隼人町	△	△	△	/
22	鹿児島県加治木町	▲	▲	△	/
23	鹿児島県始良町	▲	▲	/	/
24	鹿児島県吉田町	▲	▲	/	/
25	鹿児島県鹿児島市	▲	▲	▲	▲

凡例

▲ ケタ

▽ ケータ

/ カイタ

= カイダ

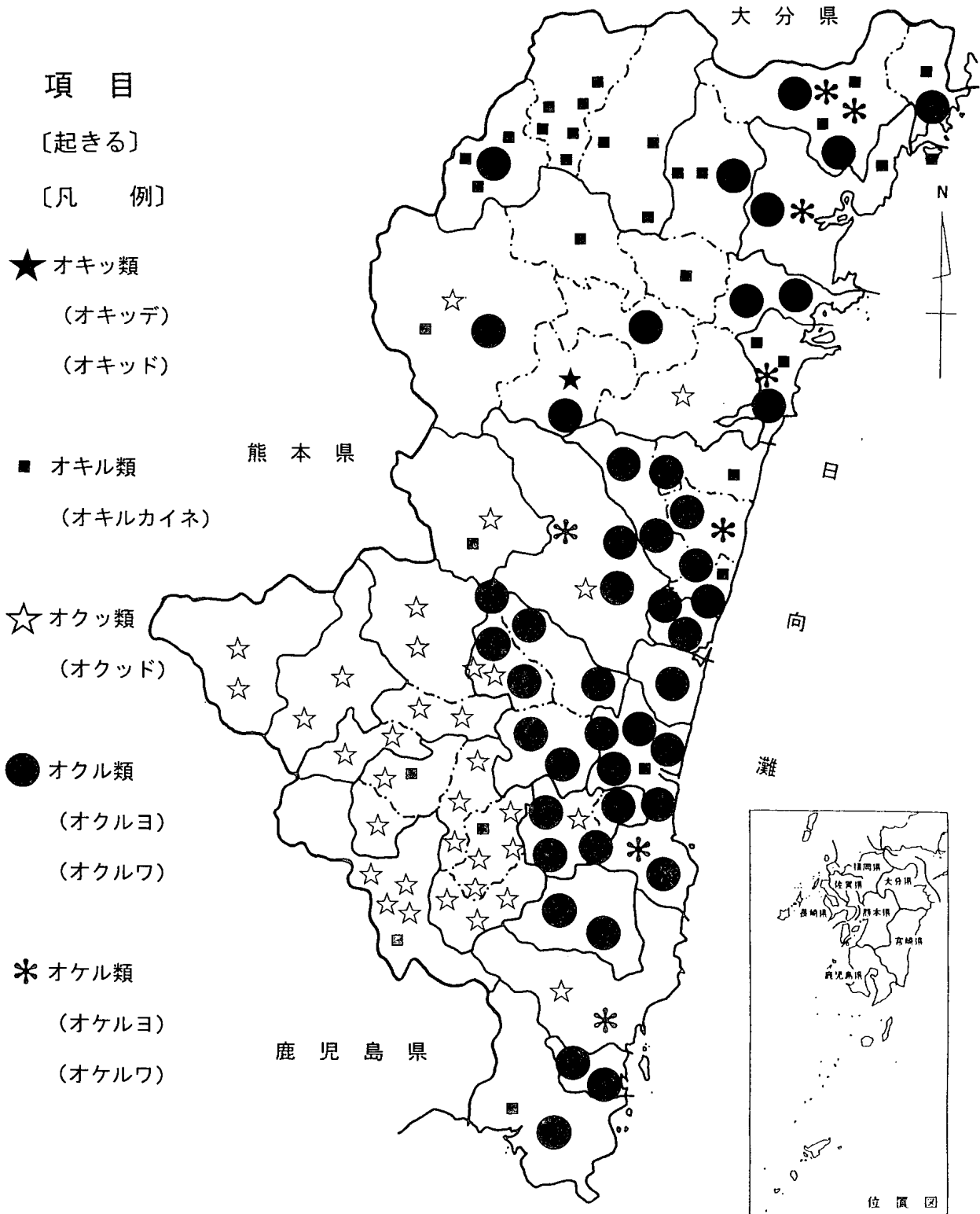
☆ カツ

【表5】

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会



[図6]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 起きる 〕

質問：「明日は何時に起きるか」と家の人から聞かれて、「6時に起きる」と言う時、起きるのところをどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	*	△	/*	/	
02	宮崎県門川町	△	△	△	/	● オキッ
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/	
04	宮崎県日向市美々津	△*	△	/	/	△ オクル
05	宮崎県都濃町	/	△	/	/△	
06	宮崎県川南町	△	*	△	/	△ オクッ
07	宮崎県高鍋町	△/	△	△/	△/	
08	宮崎県新富町	/	△	△	△	* オケル
09	宮崎県佐土原町	△	/	△	/	★ オケッ
10	宮崎県宮崎市旧市内	△*	/	/	/	
11	宮崎県宮崎市木花	△	△	△	/	
12	宮崎県清武町	△	/	*	/	/ オキル
13	宮崎県田野町	△	/	▲/	△▲	
14	宮崎県山之口町	●	●	●	/	
15	宮崎県三股町	●	/	●/	/	
16	宮崎県都城市	○	○	○	/	
17	鹿児島県末吉町	○	○	○	/	
18	鹿児島県財部町	○	○	○	○	
19	鹿児島県福山町	○	○	○	/	
20	鹿児島県国分市	●/	●	●	●/	
21	鹿児島県隼人町	○	○	○	/	
22	鹿児島県加治木町	●	●	/	/	
23	鹿児島県始良町	●	●	/	/	
24	鹿児島県吉田町	●	●★	/	△	
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	●	

【表6】

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[起きることができる]

[凡例]

★ オキガナイ類
 (オキガナ)
 (オキガナツ)
 (オキイーガナイ)
 (オキイーガナイヨ)
 (オキイーガナツド)

⊙ オキラレル類
 (オキラレル)

● エーオキル類
 (エーオキルガ)
 (エーオクツ)
 (エーオクツサ)
 (エーオクツド)
 (エーオクル)
 (エオクル)
 (エーオケル)
 (エーオキル)

⊕ ヨーオキル類
 (ヨーオクル)
 (ヨーオケル)

Ⓛ オクルコトガデクイ類
 (オキルコトガデキル)

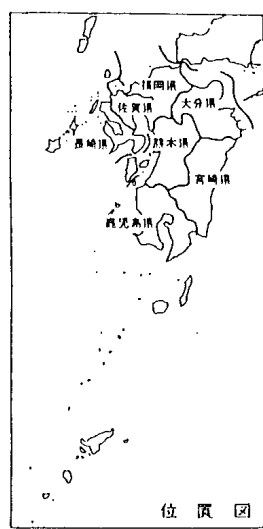
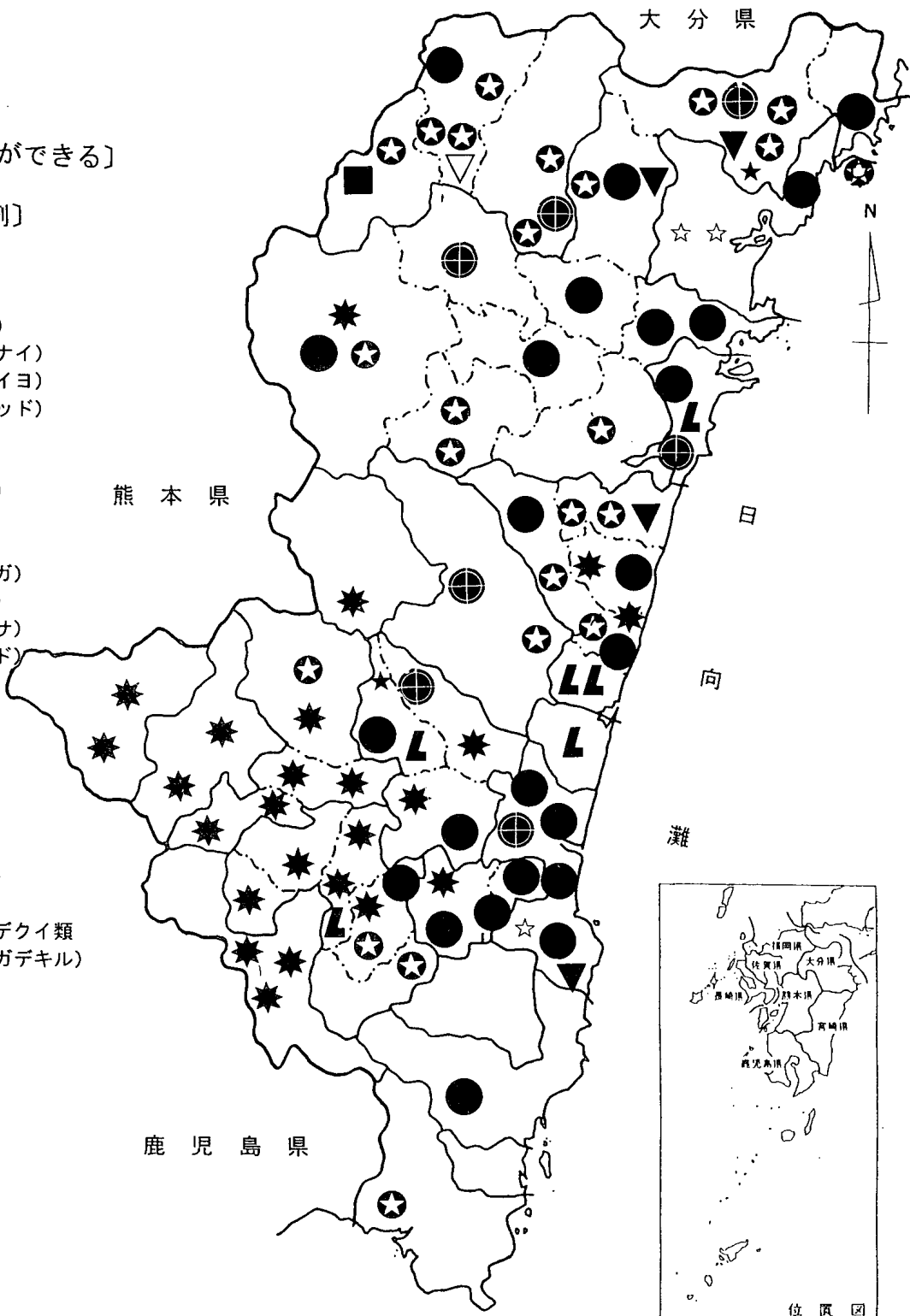
▽ オキルル

▼ オキレル

☆ オケラレル

★ オケラレル

■ オキキル



[図7]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 起きることができる 〕

質問：それでは、「明日は5時に起きることができる」という場合、「起きることができる」の部分はどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	-□	-□	-□	/
02	宮崎県門川町	☆□	☆○	/○	/
03	宮崎県日向市細島	▽	▽+	/	+
04	宮崎県日向市美々津	▽	☆▽	△▽	+ /
05	宮崎県都濃町	/+	+	/	/
06	宮崎県川南町	☆	▽	/	=
07	宮崎県高鍋町	/	-	×	/
08	宮崎県新富町	▽	☆	/	/
09	宮崎県佐土原町	☆	☆	☆	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	☆	☆	△	/
11	宮崎県宮崎市木花	×◎	☆	/	/
12	宮崎県清武町	▽	/		/
13	宮崎県田野町	▽☆	☆	/÷	/
14	宮崎県山之口町	◆	◆	◆	/+
15	宮崎県三股町	◆	◆	◆	/
16	宮崎県都城市	◇	◇	◇	+
17	鹿児島県末吉町	◇	◇	◇	/
18	鹿児島県財部町	◇	◇	=	○
19	鹿児島県福山町	◇	◇	=	/+
20	鹿児島県国分市	◆	=◆	+	/
21	鹿児島県隼人町	=◇	◇	◇	/
22	鹿児島県加治木町	◆	◆	/	/
23	鹿児島県始良町	◆	◆	/	/
24	鹿児島県吉田町	◆	◆	+	/
25	鹿児島県鹿児島市	=◆	◆	◆	●

凡例

- / オキレル
 - オケラレル
 + オキラレル
 = オキラル
 || オキラルツ
 ÷ オキルル
 × オケラルル
 ☆ エーオクル
 △ エーオキル
 ○ エーオケル
 ▽ ヨーオキル
 □ ヨーオケル
 ◎ ユーオクル
 ● オキルコツガデクツ
 ◆ オキ(ー)ガナイ
 = オキーヤナイ

【表7】

宮崎県言語地図

1998

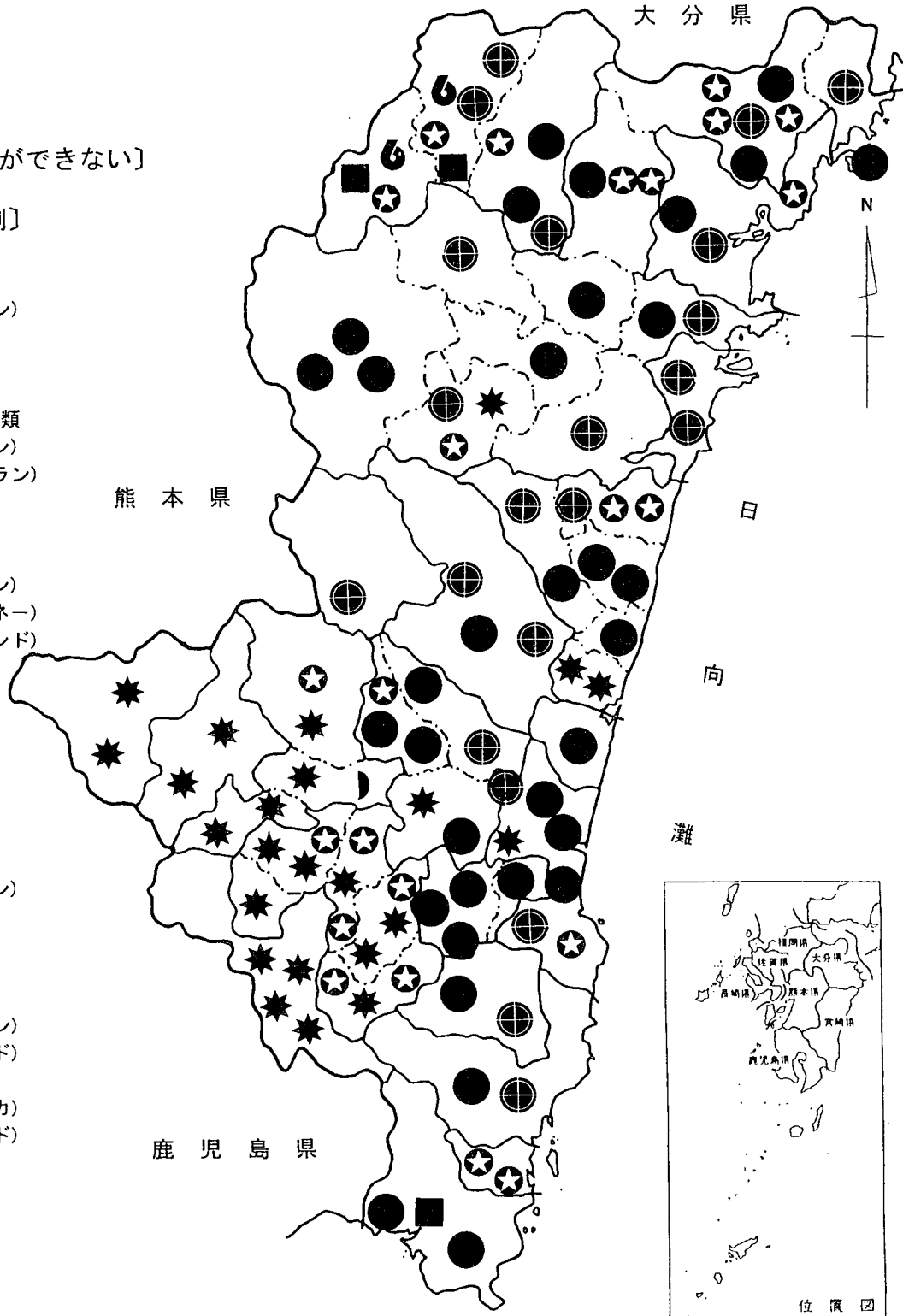
宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[起きることができない]

[凡例]

- エーオキン類
(エーオキラン)
(エーオケン)
(エモオキン)
- ★ オキガナラン類
(オキヤナラン)
(オキーガナラン)
(オキガナン)
(オキキラン)
(オキヤナイ)
(オキヤキラン)
(オキログタネー)
(オキヤナランド)
- ☆ オキラレン類
(オキレン)
(オケラレン)
- オキキラン類
- ♯ オケキラン類
(オキリキラン)
- ◐ オキンサン類
- ⊕ ヨーオキン類
(ヨーオキラン)
(ヨーオキンド)
(ヨーオケン)
(ヨーオケンカ)
(ヨーオケンド)



[図8]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 起きることができない 〕

質問：それでは、「明日は5時に起きることができるか」と聞かれて、「5時には起きることができない」という場合、どう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡例
01	宮崎県延岡市	□	◇○	+	/	< オキレナイ
02	宮崎県門川町	◇	◇○	○	/	/ オキレン
03	宮崎県日向市細島	☆	+☆	☆	/<	- オケラレン
04	宮崎県日向市美々津	▽	☆	☆△	+ =	+ オキラレン
05	宮崎県都濃町	+	+<	/	/	= オキキラン
06	宮崎県川南町	☆	☆	☆	+	÷ オキャン
07	宮崎県高鍋町	+☆	☆	/	/	△ エーオキン
08	宮崎県新富町	☆◇	□	☆	/	○ エーオケン
09	宮崎県佐土原町	○	+	+	<	▽ ヨーオキラン
10	宮崎県宮崎市旧市内	○	☆	/	/	☆ ヨーオキン
11	宮崎県宮崎市木花	◇◎-	◇	◇	<	◇ ヨーオケン
12	宮崎県清武町	△	+	☆△	+	□ ヨーオケラレン
13	宮崎県田野町	○	◆	+	/	◎ ユーオケン
14	宮崎県山之口町	=	▽◆	●	+	● オッガデキン
15	宮崎県三股町	◆	◆	◆	+	■ オキルコトガデキン
16	宮崎県都城市	◇	◇	◇	+	◆ オキ(-) ガナラン
17	鹿児島県末吉町	=	◇	◇	/	= オキ(-) ヤナラン
18	鹿児島県財部町	◇	=	=	□	
19	鹿児島県福山町	◇	◇	=	/<	
20	鹿児島県国分市	÷	=	●	/	
21	鹿児島県隼人町	◇	◇	=	/	
22	鹿児島県加治木町	=	=	/	<	
23	鹿児島県始良町	◆	◆	+	+	
24	鹿児島県吉田町	◆	+◆	+	☆	
25	鹿児島県鹿児島市	◆	◆	◆	/	

【表8】

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目番号 [38]

項目

[持っているから]

[凡例]

◇ ~カイ

☆ ~カラ

⊙ ~カリ

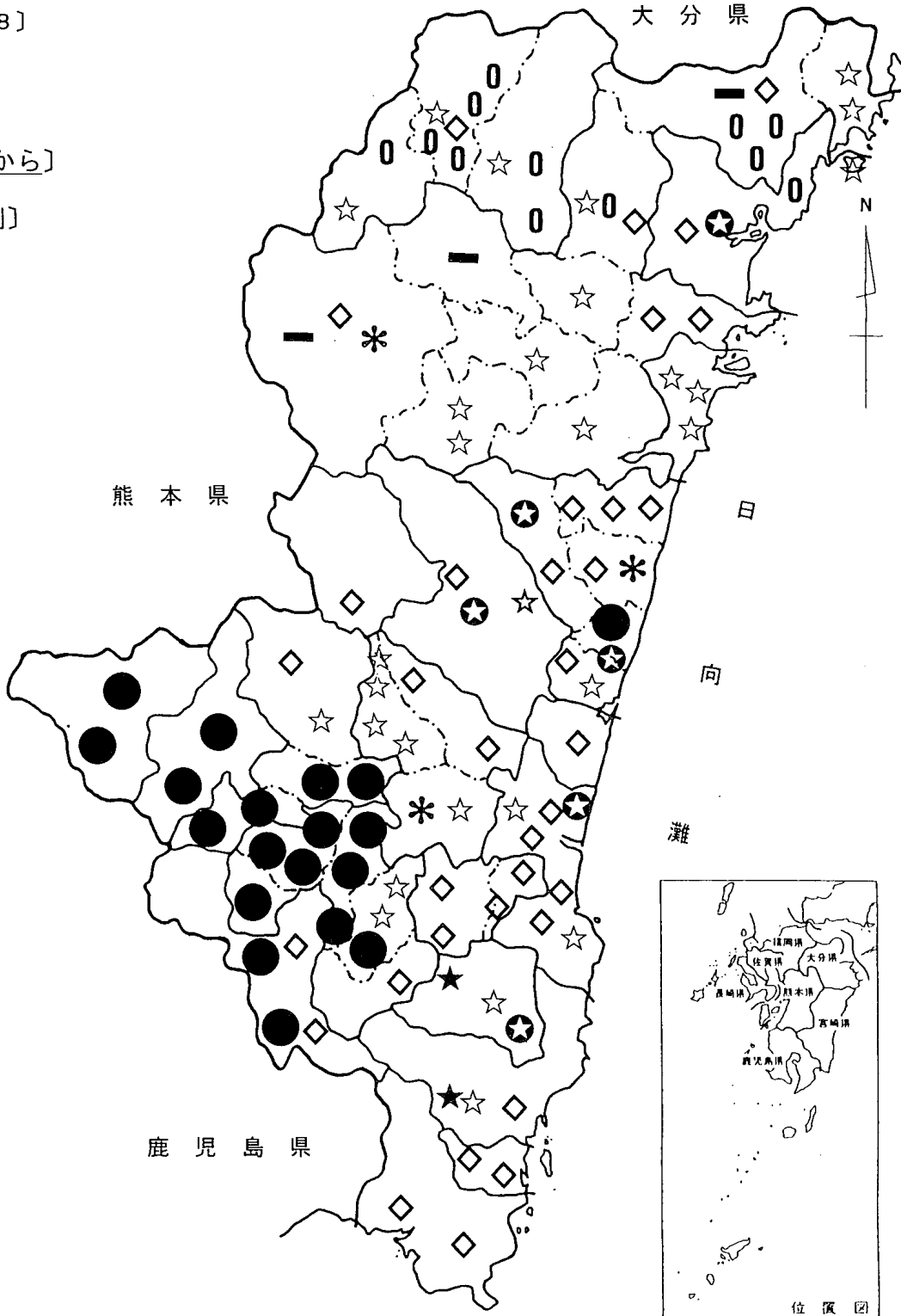
★ ~カル

○ ~キ

— ~ケー

* ~ケン

● ~デ



[図9]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔持っているから（順接）〕

質問：「袋を二つ持っているから一つやるよ」という時、「持っているから」の「から」の部分はどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	∥	∥	/=※	/
02	宮崎県門川町	=□	=	=□	/
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/=	/
05	宮崎県都濃町	=	=	=#	/
06	宮崎県川南町	=	※	=	=
07	宮崎県高鍋町	=	=	=	/
08	宮崎県新富町	/=	/	/=	=
09	宮崎県佐土原町	=	/	/	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	=	◎	/	/
11	宮崎県宮崎市木花	=	/=	=	/
12	宮崎県清武町	=	=	=	=
13	宮崎県田野町	=	=	=	/
14	宮崎県山之口町	/=	/	=	/
15	宮崎県三股町	=	=	▲	=
16	宮崎県都城市	=	=	◎	=
17	鹿児島県末吉町	△	△	△	=
18	鹿児島県財部町	△#	△	△	=
19	鹿児島県福山町	△	◇△	△	/
20	鹿児島県国分市	△	△	△	/
21	鹿児島県隼人町	△	△	△	/
22	鹿児島県加治木町	▲	▲	NR	/
23	鹿児島県始良町	▲	☆	/	/
24	鹿児島県吉田町	▲	▲	▲	/
25	鹿児島県鹿児島市	▲	▲	▲	▲

凡例

- / カラ
- ∥ カリ
- = カイ
- ※ ケン
- # ガ
- キ(-)
- ◎ ジ(-)
- ◇ テ
- ▲ デ
- ☆ ティ
- NR 無回答

【表9】

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

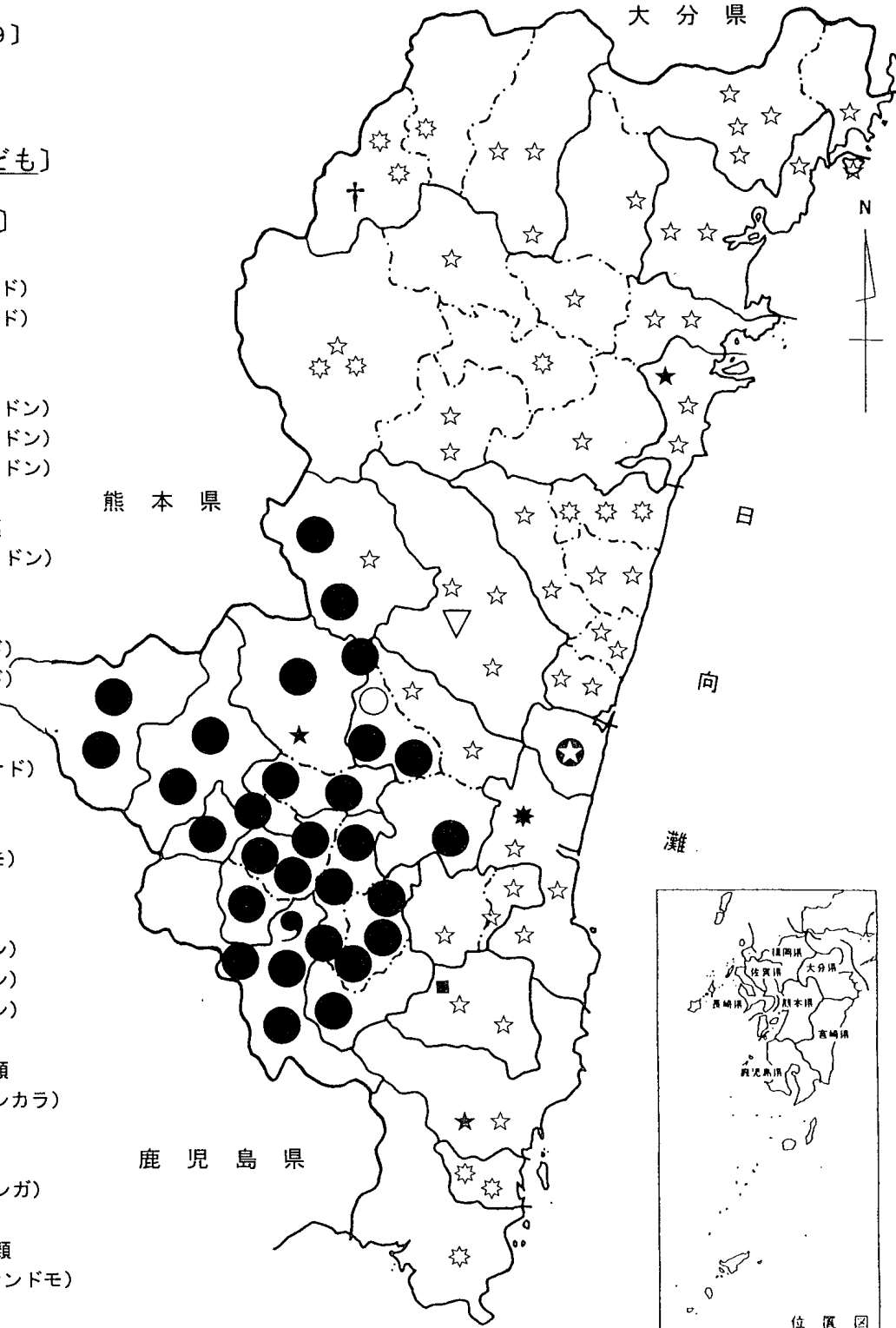
項目番号 [3 9]

項目

[帰るけれども]

[凡 例]

- ☆ ~ケンド類
(イヌルケンド)
(カエルケンド)
- ☆ ~ケンドン類
(イヌルケンドン)
(カエルケンドン)
(モデルケンドン)
- ~ケットン類
(カエルケットン)
- ★ ~ケド類
(カエルケド)
(モデルケド)
- ~ケナド類
(カエルケナド)
- ~ドモ類
(モデルドモ)
- ~ドン類
(カエルドン)
(カエドン)
(モデルドン)
- ~ドンカラ類
(モデルドンカラ)
- ▽ ~ケンガ類
(カエルケンガ)
- ★ ~ケンドモ類
(カエルケンドモ)
- † ~バッテン類
(カエルバッテン)



[図10]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 帰るけれども (逆接) 〕

質問：「今日は帰るけれども明日また来るよ」という場合、
「けれども」の部分をどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	▲	▲	▲	/	
02	宮崎県門川町	▲	▲	▲	/	/ ケド
03	宮崎県日向市細島	/	/▲	◇	/	□ ケン
04	宮崎県日向市美々津	▲	/	/▲	/	◇ ケンド
05	宮崎県都濃町	▲	◇	☆	/	▲ ケンドン
06	宮崎県川南町	▲	▲	▲	□	△ ケットン
07	宮崎県高鍋町	▲	◇	□	/	▽ ケンドンガ
08	宮崎県新富町	▲○	□	/▲□	▽	☆ ジャケンドン
09	宮崎県佐土原町	△	/	※	※	※ ドン
10	宮崎県宮崎市旧市内	▲	▲	/	/	* ドモ
11	宮崎県宮崎市木花	▲	▲	□	/	○ カイ
12	宮崎県清武町	/	○	▲□	□	= ナー
13	宮崎県田野町	▲	○	▲	▲	∞ デー
14	宮崎県山之口町	※	○	※	/	
15	宮崎県三股町	※	※	/	/	
16	宮崎県都城市	※	※	※	□	
17	鹿児島県末吉町	※	※	※	/	
18	鹿児島県財部町	※	※	=	※	
19	鹿児島県福山町	※	∞	※	/	
20	鹿児島県国分市	※	※	※	/	
21	鹿児島県隼人町	/	/	/	※	
22	鹿児島県加治木町	※	※	※	/	
23	鹿児島県始良町	※	※	/	/	
24	鹿児島県吉田町	※	※	※	*	
25	鹿児島県鹿児島市	※	※	※	※	

【表10】

宮崎県言語地図

1998

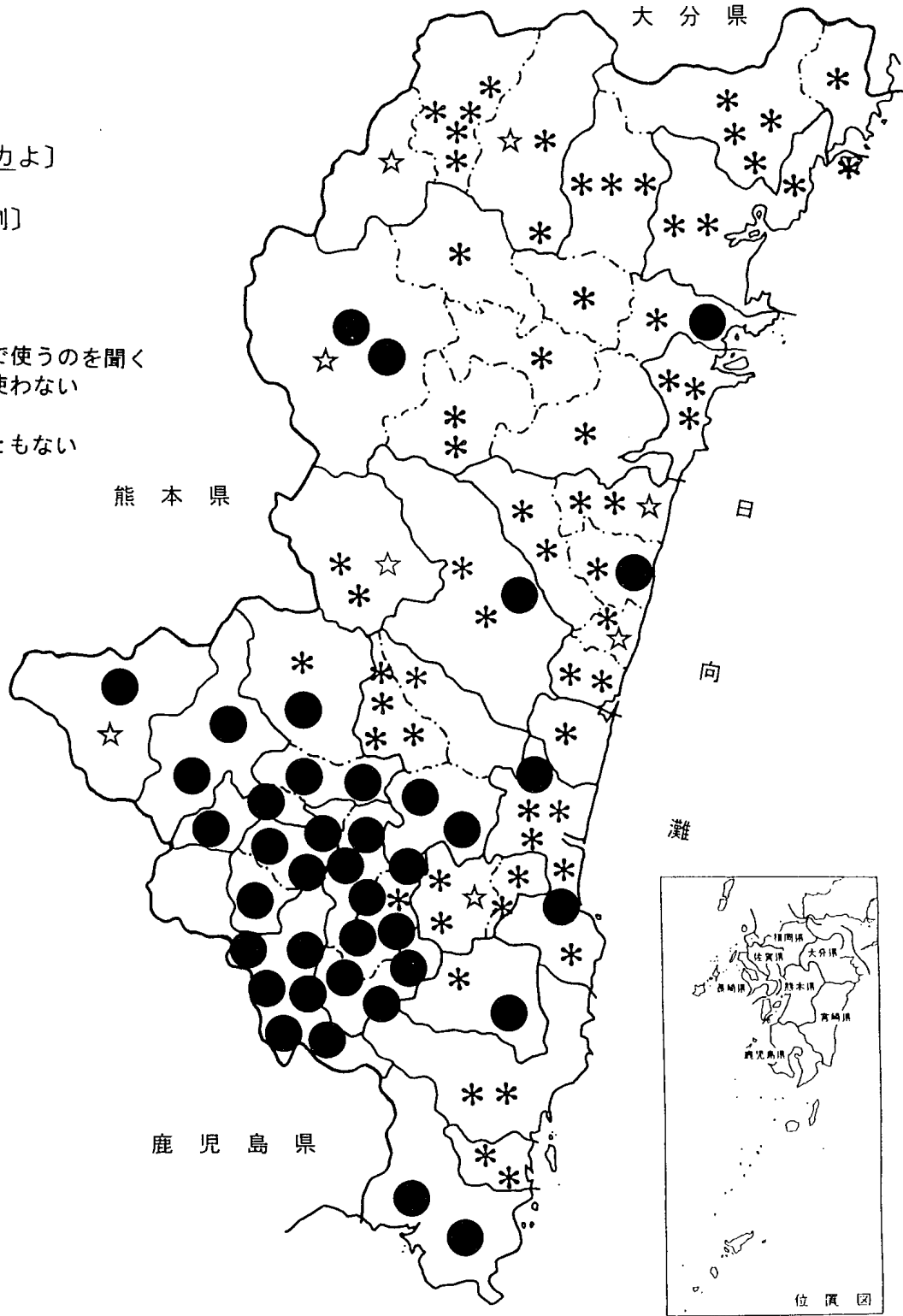
宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[帰ってヨカよ]

[凡例]

- 使う
- ☆ この地域で使うのを聞か
が自分は使わない
- * 聞いたこともない



(図11)

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目 [「ヨカ」を使うか]

質問：「お前はもう帰っていいよ」という場合、「いい(よ)」を「よか(よ)」と
いうことがありますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	/	/	/	/	
02	宮崎県門川町	/	/	/	/	● 使用する
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/	
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/	
05	宮崎県都濃町	▽	/	/	/	▽ 聞くことはあるが 使わない
06	宮崎県川南町	/	/	/	/	
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/	
08	宮崎県新富町	/	/	/	/	
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	▽	/ 使用しない
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	▽	▽	
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	/	/	
12	宮崎県清武町	/	/	/	/	
13	宮崎県田野町	/	/	/	/	
14	宮崎県山之口町	/	/	/	/	
15	宮崎県三股町	●	●	●	●	
16	宮崎県都城市	○	○	○	○	
17	鹿児島県末吉町	○	○	○	○	
18	鹿児島県財部町	○	○	○	○	
19	鹿児島県福山町	○	○	/	▽	
20	鹿児島県国分市	●	●	●	/	
21	鹿児島県隼人町	○	○	○	▽	
22	鹿児島県加治木町	●	●	●	/	
23	鹿児島県始良町	●	●	▽	●	
24	鹿児島県吉田町	●	●	●	●	
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	●	

【表11】

宮崎県言語地図

1998

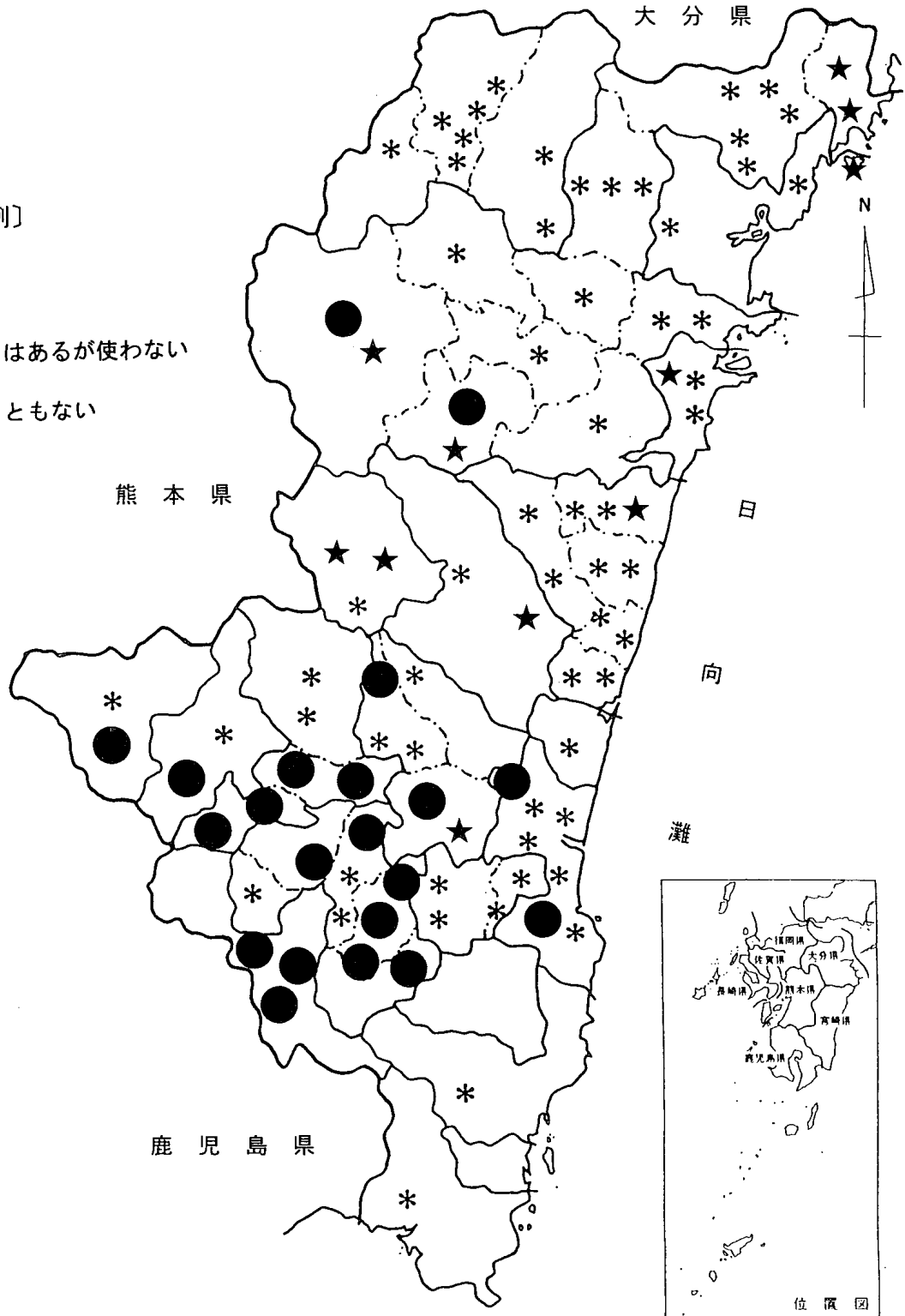
宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[シロカ]

[凡例]

- 使う
- ★ 聞くことはあるが使わない
- * 聞いたこともない



[図12]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 シロカ 〕

質問：「白い」を「シロカ」ということがありますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市旧市内	/	/	/	/
02	宮崎県門川町	/	/	/	/
03	宮崎県日向市細島	/	/	/	/
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/
05	宮崎県都濃町	/	/	/	/
06	宮崎県川南町	/	/	/	/
07	宮崎県高鍋町	/	/	/	/
08	宮崎県新富町	/	/	/	/
09	宮崎県佐土原町	/	/	/	/
10	宮崎県宮崎市旧市内	/	/	/	/
11	宮崎県宮崎市木花	/	/	/	/
12	宮崎県清武町	/	/	/	/
13	宮崎県田野町	/	/	/	/
14	宮崎県山之口町	●	/	●	▽
15	宮崎県三股町	●	/	/	▽
16	宮崎県都城市	○	○	○	○
17	鹿児島県末吉町	○	○	○	/
18	鹿児島県財部町	○	○	/	○
19	鹿児島県福山町	○	/	/	▽
20	鹿児島県国分市	/	○	/	▽
21	鹿児島県隼人町	○	○	○	○
22	鹿児島県加治木町	○	○	/	/
23	鹿児島県始良町	●	●	▽	▽
24	鹿児島県吉田町	●	●	▽	/
25	鹿児島県鹿児島市	●	●	●	▽

凡 例

● 使用する

▽ この地域で使用するが、
自分は使わない

/ この地域では使わない

【表12】

宮崎県言語地図

1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[たくさん]

[凡例]

▶ イPPER類
(イPPパイ)

* ウゴツ

† ウント

↑ エライコツ類
(エレコツ)

◇ ヨカランコ類
(ヨカランナコツ)

▽ ヨーケ類
(ヨケ)
(ヨーキ)

L ヨンコ

■ ギョーサン類
(ギーサン)
(ギョッサン)
(ギョサン)

● ジョッサン

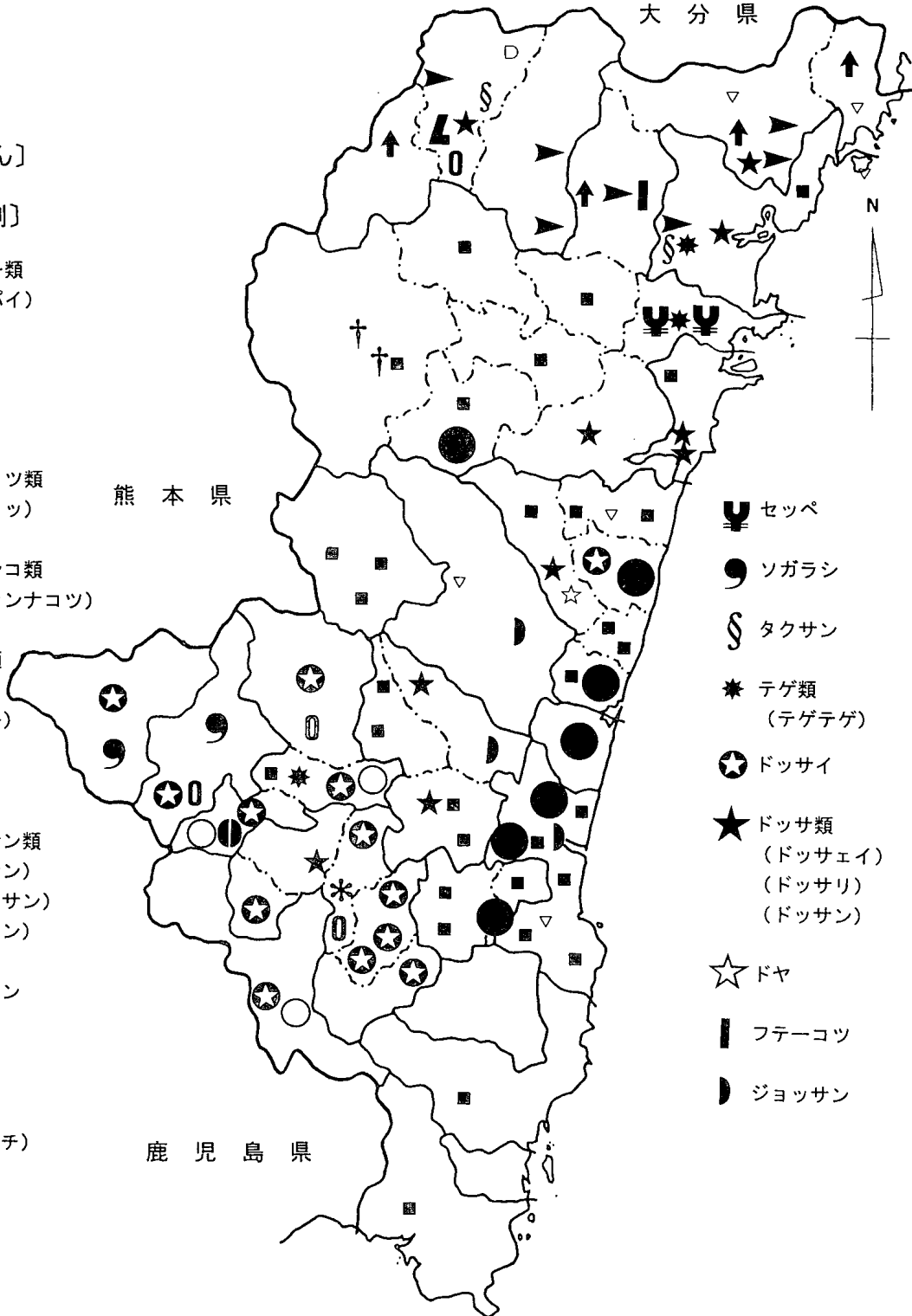
○ ズバ

0 ズバツ類
(ズバツチ)

熊本県

鹿児島県

大分県



[図13]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目 [たくさん]

質問：「魚がたくさん取れた」という場合、「たくさん」の部分を
どう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡例
01	宮崎県延岡市	●	※＝	－＊	※	－ ドッサリ
02	宮崎県門川町	－≪	¥	≪＝	*	/ ドッサイ
03	宮崎県日向市細島	●	●	●	*	\ ドッサン
04	宮崎県日向市美々津	\－	*	＝※	※	＝ テゲ
05	宮崎県都濃町	●	&	*	*	■ ズンバイ
06	宮崎県川南町	◎	/	\$	*	◆ ズバ(ツ)
07	宮崎県高鍋町	●	\$	●	＝	△ ズバッチ
08	宮崎県新富町	●&	◎○	◎&\$	＝	& ヨーケ
09	宮崎県佐土原町	◎	●	●	＝	● ギョーサン
10	宮崎県宮崎市旧市内	●	＝	※	＝	◎ ジョーサン
11	宮崎県宮崎市木花	●	●	●＝	※☆	○ ジョッサン
12	宮崎県清武町	●	●	＝	＝	@ ジョジョン
13	宮崎県田野町	●	○＝	＝	＝	× タクサン
14	宮崎県山之口町	/	/	@	＝	※ イッパイ
15	宮崎県三股町	/	◆	/	#	≪ セツペ
16	宮崎県都城市	/	△	/	○	* イッペ
17	鹿児島県末吉町	◇	◇	△	☆	# チョー
18	鹿児島県財部町	◇	/	◇	∞	∞ オッジゴ
19	鹿児島県福山町	◇	◇	/□	×	¥ エレ(ー)
20	鹿児島県国分市	◇	◇	/	×	\$ ドヤツ
21	鹿児島県隼人町	◇/□	◇	/@	△	△ ワッセ
22	鹿児島県加治木町	/	■◆	□	/	☆ オゼ
23	鹿児島県始良町	/	■	×	×＝	
24	鹿児島県吉田町	◆■	◆	◆	＝	
25	鹿児島県鹿児島市	△	■	△	△＝	

【表13】

宮崎県言語地図

1998

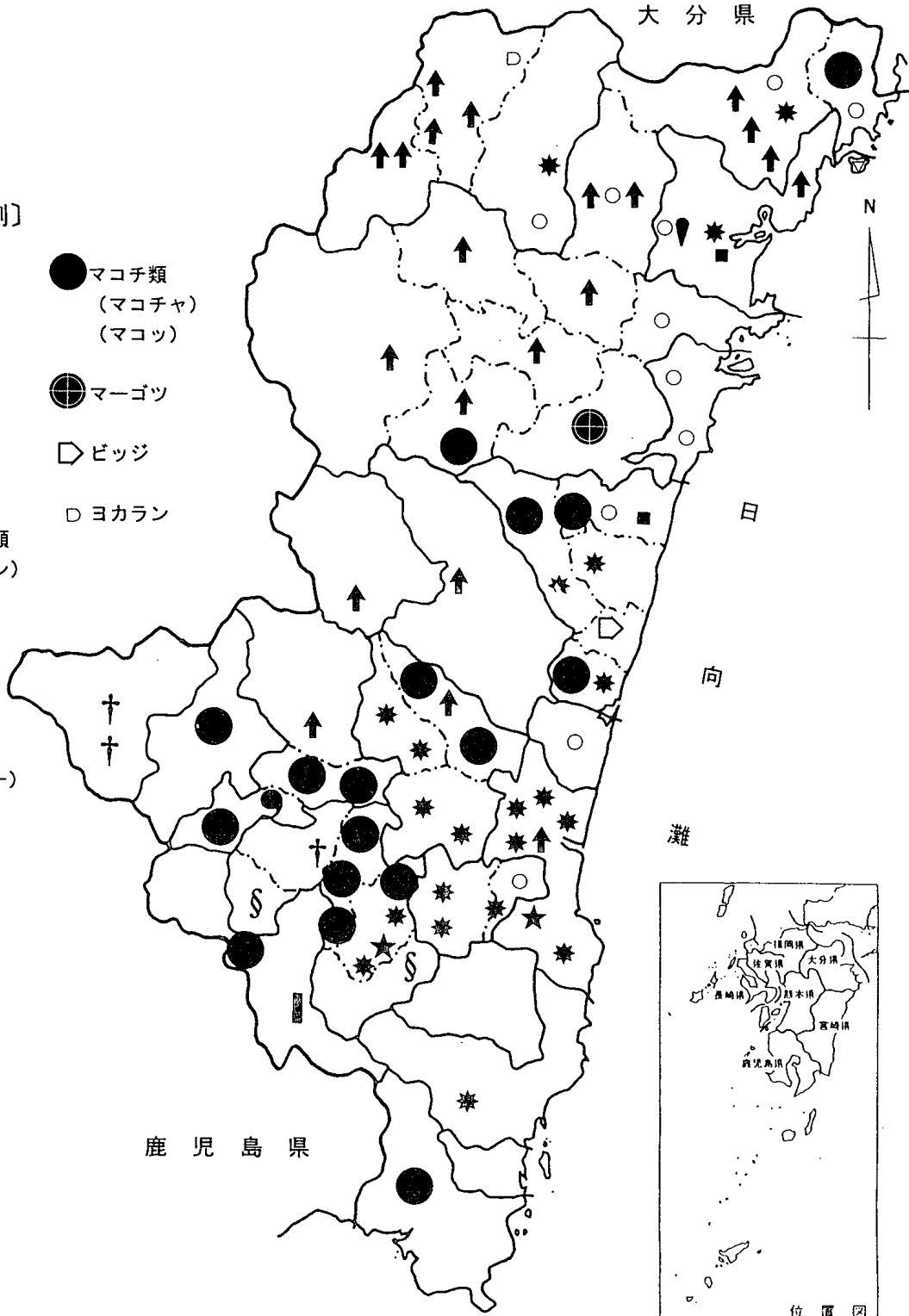
宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[すごく]

[凡例]

- ↑ エレ類 (エレー) (エライ) (エローメ)
- オジゴ
- カカラナネ
- § ジョジュン類 (ジョジョン)
- ギョーサン
- スゲー類 (スゴイ) (スゴク) (モノスゲー)
- ▼ タイヘン
- ★ トツテモ類 (トテモ)
- ★ テゲ類 (テーゲ)
- † ワッセ
- マコチ類 (マコチャ) (マコツ)
- ⊕ マーゴツ
- ◇ ビッジ
- ヨカラン



[図14]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目 [すごく]

質問：「あそこのラーメン、すごく美味しい」という時、「すごく」の部分はどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層
01	宮崎県延岡市	● =	=	*	⇔
02	宮崎県門川町	⇒	¥		#⇔
03	宮崎県日向市細島	⇒	⇔	⇔	#⇔
04	宮崎県日向市美々津	⇔	⇔	⇔	#
05	宮崎県都濃町	●	⇔	=	⇔
06	宮崎県川南町	=	NR	&	=
07	宮崎県高鍋町	%	=	●	=
08	宮崎県新富町	⇒⇒	=	⇔ =	⇔
09	宮崎県佐土原町	⇒	⇒	⇒	=
10	宮崎県宮崎市旧市内	¥	=	▲	⇒⇒
11	宮崎県宮崎市木花	●	=	= ∈	⇒
12	宮崎県清武町	⇒	=	=	=
13	宮崎県田野町	=	=	=⇔	=
14	宮崎県山之口町	=	=	@	⇔# =
15	宮崎県三股町	♠	NR	⊆	⇔
16	宮崎県都城市	NR	⊆	△	=
17	鹿児島県末吉町	△	☆	△	△
18	鹿児島県財部町	⇔	⇔	@	△∞
19	鹿児島県福山町	△	☆	△	△# =
20	鹿児島県国分市	∞●◆	☆	⇒	△⇔#
21	鹿児島県隼人町	◇/□	△	/@	△∞
22	鹿児島県加治木町	△	△	△	∴
23	鹿児島県始良町	△	△	⇒	▽△#
24	鹿児島県吉田町	△⇒	△	▽⇒	△
25	鹿児島県鹿児島市	△≡	△	△	△ =

凡例

/	ドッサイ	⇒	マコツ
≡	ムッション	∈	マコ
=	テゲ	⊆	マコチ
■	ズンバイ		モノスゴク
◆	ズバ(ッ)	⇒	スゴク
△	ズバッチ	⇔	スゲー
&	タクマシ	∴	バリ
%	ヒッジ	NR	無回答
●	ギョーサン		
@	ジョジョン		
♠	ジョジュン		
*	イッペ		
#	チヨー		
∞	オッチゴ		
¥	エレ(ー)		
△	ワッセ		
▽	ワッゲ		
☆	オゼ		

【表14】

宮崎県言語地図

1998

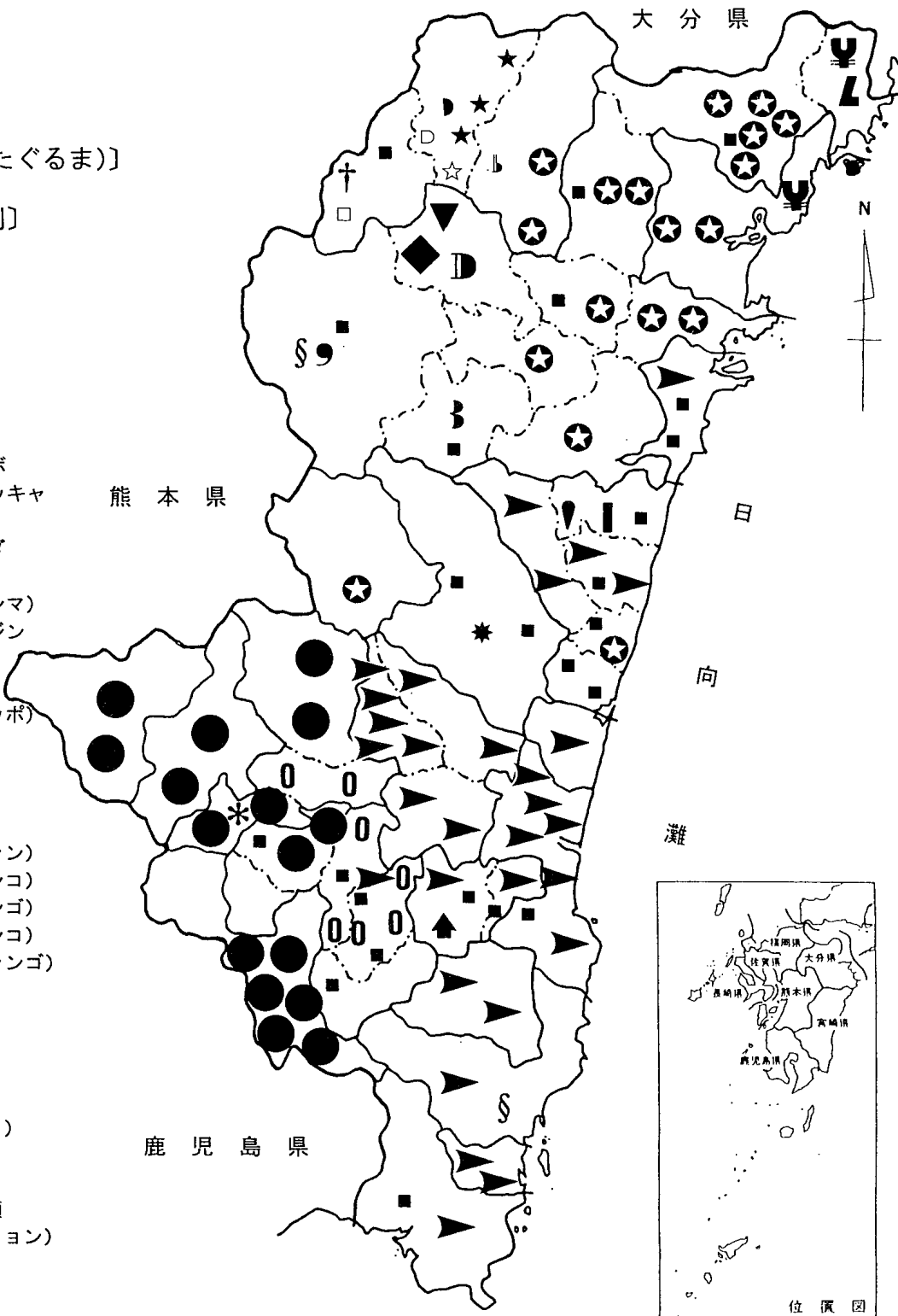
宮崎国際大学・地域言語研究会

項目

[肩車 (かたぐるま)]

[凡例]

- § ウマグルマ
- ㄥ オンブリ
- カタグルマ類
(カタグイマ)
- ▷ カタンノスイ
- カタンマ
- ㄩ カンギ
- ◇ キンカンナンボ
- ◆ サルマタクウツキャ
- ▷ タカビツビ
- ▷ チンカンマンダ
- ★ テングルマ類
(テングルマンマ)
- ▽ テンジンバンジン
- ☆ テンテン
- ★ テンパツパ類
(テンテンポツポ)
- ビゴビン
- ▲ ビツチャンゴ
- † ビンカタ
- ▶ ビビンコ類
(ピンピンシャン)
(ビビンシャンゴ)
(ビピンチャンゴ)
(ビピンチャンゴ)
(ピンピンシャンゴ)
- ビンズイ類
(ビズイ)
(ピンズイコ)
(ピンズラコ)
(ピンヅラコ)
(ピンツイイコ)
- * ビンタ
- ▷ ビンチョコ
- ビンピラコン類
(ピンピラヒョン)
(ピンピン)
- ★ ベベンチョコ
- ◎ マノリ
- その他



[図15]

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 肩車（かたぐるま） 〕

質問：祭りや盆踊りの時などに子供がよく見えるように、父親が子供を肩のところへ乗せることがあります。これをどう言いますか。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡 例
01	宮崎県延岡市	※	※	/※	/	/ カタグルマ
02	宮崎県門川町	※	※	※	/	※ テングルマ類 (テンテングルマ)
03	宮崎県日向市細島	▲	/	▲	/	* チョンチョングルマ
04	宮崎県日向市美々津	/	/	/	/	◇ ビビンシャン類 (ビビンシャンコ)
05	宮崎県都濃町	/	/	/≡	/◇	▲ ビビンコ類 (ビビンゴ)
06	宮崎県川南町	/▲	/◇▲	◇	◇	▼ ビビッコ
07	宮崎県高鍋町	/	※	※	/	■ ビビンショ
08	宮崎県新富町	/	/	/◇	/◇	★ ビビッチャン
09	宮崎県佐土原町	▲	/	◇	/	○ ビンビラコ類 (ビンビラコン)
10	宮崎県宮崎市旧市内	◇▲	/	/	/	● ビンズイ類 (ビンズイコ)
11	宮崎県宮崎市木花	◇	*◇	◇	/	(ビンズイコン)
12	宮崎県清武町	◇	◇	/	/	◎ ビンツッコ
13	宮崎県田野町	∞	/∞	◇	/	÷ ビンドウイ
14	宮崎県山之口町	/○	○	○	/	× ビンズクイ
15	宮崎県三股町	●	◎	◎	/	= ビンビンコツ
16	宮崎県都城市	●	●	●	/	≡ ビンチョ
17	鹿児島県末吉町	●	●	◎	/	≡ ビンコ
18	鹿児島県財部町	◎↔	○	◎	○	∞ ビッチャンコ
19	鹿児島県福山町	△	/	△	/	∴ ビリンコ
20	鹿児島県国分市	÷∴	/▲	≡	/▲	↔ ガルツセ
21	鹿児島県隼人町	△	△	=	/	
22	鹿児島県加治木町	∞	▼	/	/	
23	鹿児島県始良町	▲	▲	▲	/	
24	鹿児島県吉田町	▲×∞	★	/	/	
25	鹿児島県鹿児島市	■	▲	▲	/	

【表15】

宮崎県言語地図

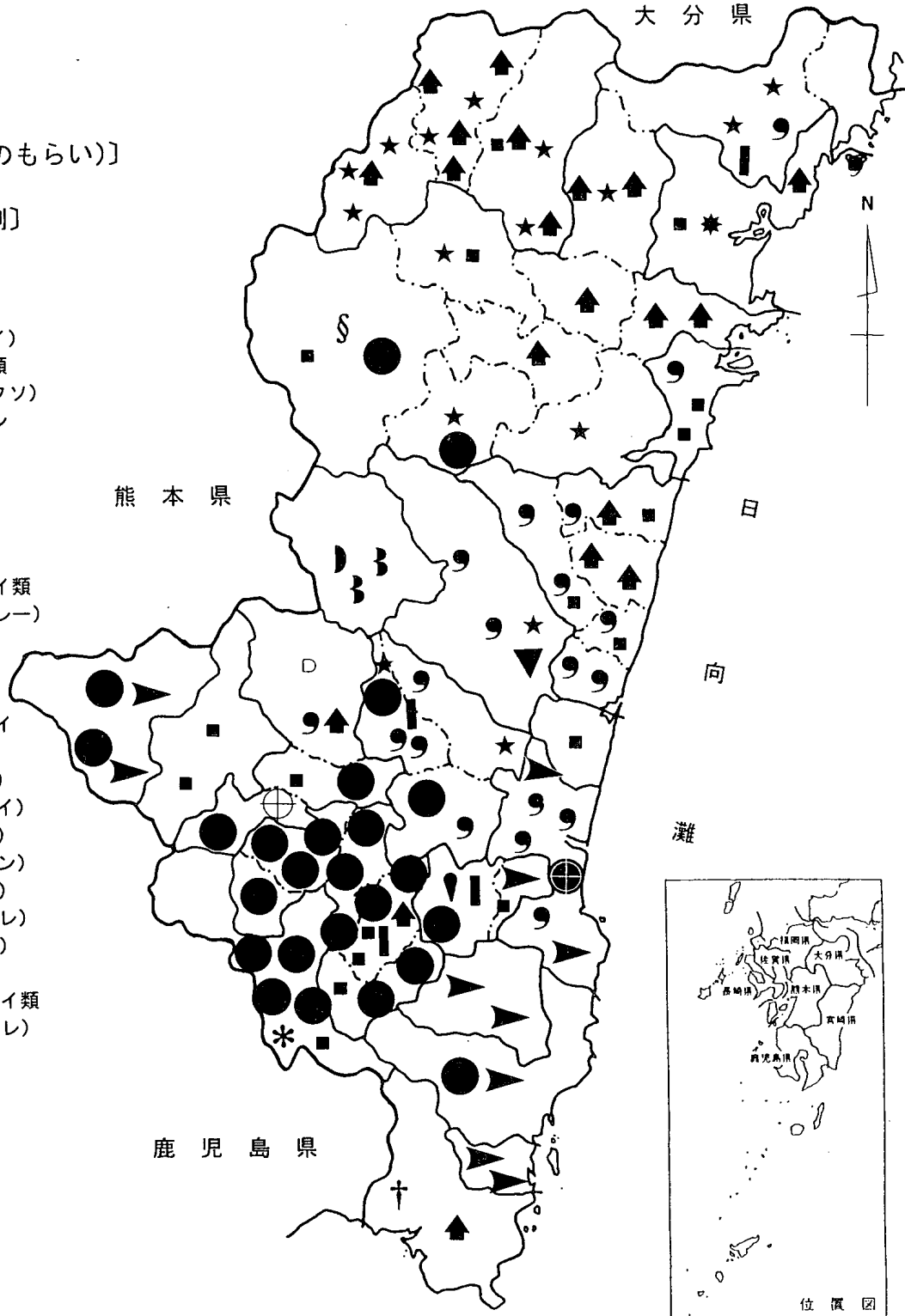
1998

宮崎国際大学・地域言語研究会

項目
〔麦粒腫 (ものもらい)〕

〔凡 例〕

- ⊕ イボメ
- ⊕ イモレ類
(イモレイ)
- ▲ インノメ類
(インノクソ)
- ★ オヒメサン
- ★ ネブ類
(ネプト)
(メネブ)
- メイボ
- * メガサ
- ◐ メシモライ類
(メシモレー)
- ▶ メバチコ
- ▼ メブトリ
- ▼ メボ
- § メミモライ
- メモレ類
(メモノ)
(メモライ)
(メモリ)
(メモリン)
(メモレ)
(メイモレ)
(メムレ)
- モノ
- モノモライ類
(モノモレ)
- その他



〔図16〕

延岡市～鹿児島市グロットグラム調査

MIC 地域言語研究会

項目〔 麦粒腫（ものもらい） 〕

質問：まぶたのところにぶつとできる小さなでき物です。何と言いますか。うみを
持って赤くはれると、むずむずしてかゆいのですが、すぐ治ります。

NO	調査地点	老年層	壮年層	中年層	若年層	凡例
01	宮崎県延岡市	≡	/	/●	/	≡ オヒメサン
02	宮崎県門川町	△	△	△	/	/ モノモライ
03	宮崎県日向市細島	●	/	●	●	モノモレ
04	宮崎県日向市美々津	/	*	●	/●	+ メモリ
05	宮崎県都濃町	/△	△	●	/●	— メモレ
06	宮崎県川南町	▲	⊥▲	/	●	× メモライ
07	宮崎県高鍋町	●	∧	●	●	± メムレ
08	宮崎県新富町	●	●	●	●	< メボ
09	宮崎県佐土原町	●	●	●	⊥	> メボシ
10	宮崎県宮崎市旧市内	●>	●	/	⊥	● メイボ
11	宮崎県宮崎市木花	☆	⊥∴	●	●⊥	△ メンタレ
12	宮崎県清武町	⊥	●	☆	●	⊥ メバチコ
13	宮崎県田野町	/<	+±∩	∧÷	/	∧ メネブ
14	宮崎県山之口町	/△	—	±	/	⊥ メガサ
15	宮崎県三股町	±	∴	—	/	△ インノクソ
16	宮崎県都城市	×	—	—	/	△ インノメ
17	鹿児島県末吉町	—	—	—	/	◇ インモエ
18	鹿児島県財部町	—	/	—	/	◇ インムレ
19	鹿児島県福山町	☆	/	☆	/	☆ イモレ（インモレ）
20	鹿児島県国分市	⊥◇◇	◇	/△	/	∩ ヤモリ
21	鹿児島県隼人町	◇	◇⇔	⇔	⇔	* デキモン
22	鹿児島県加治木町	☆	/	/	/	∴ ネボ
23	鹿児島県始良町	/×	●	/	/	∴ ネブ
24	鹿児島県吉田町	☆	☆	/	/	÷ ネブタ
25	鹿児島県鹿児島市			☆	/	⇔ バカ
						☆ イニボソン

【表16】